広報誌 和 第76号

2015.10

公益社団法人 神奈川県柔道整復師会

■巻　頭　言　　会　長　和　田　秀　樹

■連　載　企　画
・弁護士相談室　　弁　護　士　加　藤　興　平

目　次

巻　頭　言 …… 会　長　和　田　秀　樹 ……
連載企画
　顧問弁護士相談 …… 弁護士　加　藤　興　平 ……
県だより
　生涯学習講習会 …… 広　報　部 ……
　新入会員及び一般市民に対する学術講習会 …… 広　報　部 ……
　平成２７年度定時総会開催報告 …… 広　報　部 ……
　柔の軌跡 …… 広　報　部 ……
　　第３４回神奈川県柔道整復師会柔道大会
　　厚生労働大臣旗争奪第３９回日整全国柔道大会南関東大会
　　文部科学大臣杯争奪第２４回日整全国少年柔道大会・
　　文部科学大臣杯争奪第５回日整全国少年柔道形競技会
　　厚生労働大臣旗争奪第３９回日整全国柔道大会
　学の軌跡 …… 広　報　部 ……
　　第３７回神奈川県柔道整復学術大会開催報告
　第３７回神奈川県柔道整復学術大会を終えて
　　学術部長　並　木　俊　二 ……
　第１７回北丹沢１２時間山岳耐久レースに救護員として参加して
　　大和支部　田　代　優　樹 ……
　平成２７年度テーピング講習会開催報告 …… 広　報　部 ……
　ビッグレスキューかながわ …… 平塚支部　村　井　薫　一 ……
　ＫＧＣ　平成２７年度春季大会開催報告
　　ＫＧＣ　宮　本　嘉　保 ……
会員投稿
　当然の中に、必然 …… 総務統括部長　小　舘　智　治 ……
　支部長会代表挨拶 …… 支部長会代表　矢　澤　正　司 ……
　意志あるところに道は開ける
　　横須賀支部長　根　岸　清　道 ……
　四肢からの他動的左右対称運動の必要性
　　横須賀西支部　福　永　幹　夫 ……
　富士登山の感想文 …… 大和支部　川　合　　茂 ……
　短編小説　ぬくもり …… 平塚支部　岩　﨑　信　成 ……
支部だより
　川崎北支部　支部会＆納涼会 …… 川崎北支部　宍　戸　真　弓 ……
　平成２７年川崎市総合防災訓練
　　川崎北支部　宍　戸　真　弓 ……
　横浜南支部夏季学術講習会 …… 横浜南支部　樋　口　卓　哉 ……
　夏期納涼会 …… 横須賀支部　上　田　泰　洋 ……
　平塚支部だより …… 平塚支部　山　内　栄　蔵 ……
　第１回トレーナー講習会 …… 相模支部　橋　本　誠　一 ……
　チョット　変わった！相模支部顧問医講演会 …… 広　報　部 ……
写　真　館 ……
編　集　後　記 …… 広　報　部 ……

巻　頭　言

会　長　和田秀樹

今年度の総会にて、会長として初めて信任して頂き、ありがとうございました。

近年、柔道整復師を取り巻く環境は厳しさを増しております。ただ、その状況を作ってしまったのは他ならぬ柔道整復師では無いのでしょうか？

その一つに専門学校卒業後、実習することも無くすぐに開院する方の増加があげられます。何の臨床経験も無く患者さんに向き合うことは大変危険なことのように私は思います。学校で学んできた事柄を実際の現場で感じ、体験し、諸先輩の指導を受けながら徐々に施術に入れるように研修することが大事だと思います。実際の施療は患者さんごとに多種多様に変化します。また、我々の疾患だと思っているととんでもなく怖い他の病気が潜んでいることもあります。その為に絶えず勉強とそれが危険だと感じられる経験を積む必要があるのだと思います。

それでは、すぐ開業してしまう柔道整復師の人たちはそのことに気づいていないのでしょうか、そうとも限りません。研修しようと思って入った接骨院でいきなり分院を任されてしまう。そんなケースがこの頃増えて来ているように思われます。程度の低い接骨院を増加させている一因に柔道整復師があることを私達は知っていなければならないと思います。

研修しようとして入った接骨院で、分院を任される。当然設備はオーナーが作成します。どんなに違法だと思われる看板・広告等についても彼らは何も言う権限もありません。ただ言われたとおりするだけです。保険請求についても同じ事が言えるように思われます。

我々公益社団会員が抱える問題として、患者さんの減少と保険請求の問題が挙げられます。この二つの問題には一つの原因が考えられます。未熟な柔道整復師が未熟な施療と無知な保険請求をおこしており、その件数と金額が我々を凌駕している。そのため、まともな施療と保険請求している会員の皆さんの書類まで同じように取り扱われている。この問題にどう対処していけば良いか我々は常に考えています。保険部は保険者と根気よく折衝を続けています。ただどんなに説明しようと、看板に「肩こり、腰痛などお困りの方」等が書いてある接骨院が多いとこれも、あれも単なる肩こり、腰痛として片付けられてしまいます。

そこで我々公益社団はまず第一歩として広告の取り締まりについて着手していきます。まず最初に県内政令都市に要望書を提出しました。そして神奈川県議会に働きかけ、神奈川県として違法広告の取り締まりをして頂くように活動しています。我々が、法を遵守しようとしている団体であり、他の団体との違いを具体化していきたいと思います。そして最終的に公益社団の会員のみならず、神奈川県在住の接骨院が法を遵守し国民の信頼を回復し、安心して受診出来るようしていきたいと思います。

まず、「違法広告の取り締まり」という小さな一歩ですが歩み始めますので皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

顧問弁護士相談室

「知的財産権」

加藤総合法律事務所
弁護士　加　藤　興　平

一　ここ最近、東京五輪公式エンブレムなどの模倣問題が頻繁に報道されています。商標や著作権などの知的財産権は、あまりなじみがないかもしれませんが、身近なところでよく接しており、その１つに楽曲の演奏があります。東京地方裁判所は、平成２６年６月２６日、一般社団法人日本音楽著作権協会（ＪＡＳＲＡＣ）が、キャバクラ店Ｙに対し、キャバクラの店舗内でＪＡＳＲＡＣが著作権を管理する楽曲をピアノ演奏している等と主張し、著作権法１１２条に基づく上記楽曲のピアノを使用しての生演奏等の差止めとその撤去を求めるとともに、上記著作権の侵害による損害金の支払いを求めた事件について、判決を言い渡しました。今回は、この事件について、法の趣旨を勉強してみます。

なお、分かりやすくするために、判決文を適宜、要約、省略しています。

二　裁判所の認めた事実

１　「ＪＡＳＲＡＣは、著作権等管理事業法に基づき、文化庁長官の登録を受けた著作権等管理業者であり、・・・、ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲は、ＪＡＳＲＡＣが各著作権者から著作権の信託的譲渡を受けて利用の許諾等を管理する楽曲である。委託者が受託者たるＪＡＳＲＡＣに移転する著作権には著作権法２８条に規定する権利が含まれる。」

２　「キャバクラ店Ｙは、平成１８年４月に開店し、現在まで引き続きこれを経営している。営業時間は、日曜日及び祝日を除く午後７時から翌午前１時４５分までであり、店内にピアノが設置されているほか、会員制ＶＩＰルームにはカラオケ装置一式及びモニターテレビが設置されている。」

３　「キャバクラ店Ｙが経営する店内フロアには客席約１２０席が設けられて、中央にグランドピアノが設置され、階上にカラオケ装置やモニターテレビを設置したＶＩＰルームがある。キャバクラ店Ｙは、平成１８年４月の開店から少なくとも平成２４年６月７日までの間、Ｅに依頼してピアニストの派遣を受け、その営業時間中、ピアニストに１曲４ないし５分程度で、１ステージ２０ないし３０分程度のピアノ演奏を３ないし４ステージ行わせて客に聴かせ、店の雰囲気作りをしている。演奏される曲目は基本的にピアニストがその裁量により決めており、ジャズやポップスを中心に様々なジャンルにわたるが、客からのリクエストも受け付けている。派遣されるピアニストは、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｆなど複数名がおり、これらのピアニストが演奏する曲目には、ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲が多数含まれる。」

「ＪＡＳＲＡＣの担当者は、社交場実態調査を行ったが、平成２２年３月１７日は午後８時２３分から午後１０時５４分までの間に２ステージ１１曲のピアノの弾き語り、平成２３年３月９日には午後７時３０分から翌午前零時４３分までの間に

４ステージ２４曲のピアノ演奏が行われ、前者のうち少なくとも１０曲、後者のうち少なくとも１１曲がＪＡＳＲＡＣ管理楽曲であった。」

「ＶＩＰルームを使用するのは、高額な入会金を支払った客などに限定される。ＶＩＰルーム内のカラオケ装置等は、遅くとも平成２２年３月１７日の社交場実態調査を行った際には設置されており、ＶＩＰルームを使用する客がしばしば利用している。客やフロアレディがカラオケ装置を操作すると、選択した楽曲の歌詞がモニターテレビに表示され、伴奏音楽が演奏されて、客らがこれに合わせて歌唱をする。利用される楽曲には、ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲が多く含まれる。・・・料金体系は、基本料金が１万円、サービス料（消費税を含む。）３０％などとなっている。」

三　裁判所の判断について

１　ピアノ演奏について

裁判所は、「キャバクラ店Ｙは、その営業のために不特定多数の客に直接聞かせる目的で、業者から派遣されたピアニストにＪＡＳＲＡＣ管理楽曲などをピアノで演奏させたのであるから、これによりＪＡＳＲＡＣの著作権を侵害したものである。そして、・・・ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲が少なくとも１日に１０曲は演奏されていたと認めるのが相当である。」と判示し、著作権侵害を認めました。

２　カラオケについて

裁判所は、「ＶＩＰルームにおいては、これを使用する不特定多数の客やフロアレディが操作してＪＡＳＲＡＣ管理楽曲の歌詞がモニターテレビに表示され、伴奏音楽が演奏されることによりＪＡＳＲＡＣ管理楽曲の上映が行われ、客らがこれに合わせて歌唱することによりその演奏が行われていることが認められる。また、キャバクラ店Ｙが、経営するＶＩＰルームにカラオケ装置等を設置して、これをホームページ上で宣伝していること、キャバクラという接客業であり、必要があればキャバクラ店Ｙのフロアレディ等従業員が客にカラオケ装置の操作方法等を教示すると考えられること、客はキャバクラ店Ｙが用意した曲目の範囲内で楽曲を選曲するほかないこと、ＶＩＰルームを使用するためには高額な入会金等を要することなどからすれば、上記上映の主体はキャバクラ店Ｙであり、また、客による歌唱もキャバクラ店Ｙの管理の下でされ、これによりキャバクラ店Ｙが営業上の利益を得ているということができるから、演奏の主体もキャバクラ店Ｙであると認められる。そうすると、キャバクラ店Ｙは、ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲を公衆に直接見せ、又は聞かせることを目的として演奏し、又、公に上映したものであるから、ＪＡＳＲＡＣの著作権（演奏権及び上映権）を侵害したと認められる。」と判示し、著作権侵害を認めました。

「なお、ホームページにおける宣伝がされていたことからすると、社交場実態調査がされた平成２２年３月から本訴が提起された平成２４年１１月１４日頃までこれらの侵害行為が行われていたと認めるのが相当である。」と判示しています。

四　まとめ

ＪＡＳＲＡＣ管理楽曲の著作権を侵害したことが認められた事例判決の一つで

す。皆様は身近なところでよく音楽を耳にするでしょう。キャラクターなどの著作権も目にすると思いますし、商品等のネーミング等であり商標権もよく目にすると思います。正しい手続に基づいて知的財産権を使用している場合もありますし、違法な使い方がなされているケースも見られます。これを機に、知的財産権を使用方法などについて勉強してみると、また、世界が広がって見えて、よいでしょう。

以　上

生涯学習講習会

広　報　部

平成２７年３月２８日（土）本会大ホールにて学術部主催の標記講習会が開催されました。午後４時３０分より斉藤副会長の開会の辞で始まった今回の講習会は、一般市民も参加していただけるものになっており本会会員３７名に加え、９名の会員外の方々の出席がありました。

講師にメンタルクリニック・エルデ院長の坂本誠先生をお迎えし、「心の病について」と題してご講演いただきました。パニック障害、うつ病、適応障害など従来よりあったものから、最近知られるようになったＡＤＨＤ、アスペルガー症候群まで特徴的な病的サインを挙げて説明してくださいました。日頃の施術の中でも、心の病を抱えた患者様が来院することが増えてきたように思われ、その対応に難しさを感じることもあります。心の病といっても多種多様であり１時間という短い時間ではとても足らず、是非また機会を作っていただきそのような患者様との関わり方など少し踏み込んだお話まで伺いたいと思いました。

終了後に和田会長より謝辞を申し上げ、５時３０分閉会となりました。

新入会員及び一般市民に対する学術講習会

広　報　部

平成２７年３月２８日（土）本会大ホールでは生涯学習講習会に引き続き、午後５時４０分より標記講習会が開催されました。２６年度に入会した新入会員や一般市民が対象の講習会ですが、今回は新入会員と一般会員のみの併せて３７名が出席しました。

施術方針を決める上でも有用な超音波診断装置を、まだ取り扱ったことのない会員のために、興味を持つ入り口としてまずは機械を触っていただきたいとの村山学術部長の考えから、株式会社エス・エス・ビーの協力により超音波診断装置が４台用意されました。

最初に村山部長より超音波画像を扱う上での注意点を話した後、４台の装置それぞれにエス・エス・ビーのスタッフがついてプローブの当て方や画像の見方を説明しました。すでに取り扱っているという新入会員もいましたが、初めて手に取る会員が多く、熱心に画面を覗き込み手指や足の関節、筋肉、血管まで見える様子などをじっくり観察していました。装置の台数が多かったことにより出席者のほぼ全員が体験することができた良い機会となり、６時４０分に牧野副会長の閉会の辞にて散会となりました。

平成２７年度定時総会開催報告

広　報　部

平成２７年５月２４日（日）本会会館大ホールにて平成２７年度定時総会及び互助会総会が開催されました。今総会は、２年に１度の役員選任及び審議委員選任の総会でもありました。

総会開催の前に昨年度ご逝去された会員やご家族の方々に出席者全員にて黙祷が捧げられた後に互助会総会が開催されました。

「公益社団法人神奈川県柔道整復師会互助会総会」

議長：和田秀樹会員

（議事）

１号議案：平成２６年度決算報告について

２号議案：監査報告

上記議案ははいずれも可決承認されました。

「公益社団法人神奈川県柔道整復師会定時総会」

議　長：小林哲也会員

副議長：丸山孝明会員

議事録署名人：全理事者

総会成立にあたり平成２７年３月３１日現在の総会員数（７６６名）、休会者（１０名）、５月２２日までの退会者９名を除く定足数（３７４名）、開会時出席者（最終出席者１３０名）、議決権行使書提出者（４６８名）、合計５９８名に達しており定時総会の成立が報告されました。

（議事）

１号議案：平成２６年度事業報告について

２号議案：平成２６年度決算報告について

３号議案：監査報告について

４号議案：関東ブロック会総会表決権の委任について

５号議案：役員選任及び審議委員選任について

４号議案までの議案は賛成多数にて提案通り可決承認されました。また５号議案に

ついては、当日当票数：１３０票、議決権行使書数：４６８表、無効票数：１票、当選必要票数：２９９票の条件にて行われ役員及び審議委員が選任され定時総会終了後の理事会にて役割が決定されました。

（以下敬称略）

会　長（代表理事）：和田秀樹
副会長（代表理事）：牧野吉一（会長代理、担当部：保険部、広報部）
　　：齋藤武久（担当部：総務部、経理部、学術部）
総務統括部長：小舘智治
総務部長：曽我昌企
経理部長：村山　正
保険部長：刈谷満郎
学術部長：並木俊二
広報部長：白鳥輝夫
監　　事：徳留義見・森　暁夫
審議委員：池田　穣・上倉隆男・須藤和義・大友隆雄・鈴木洋一

永 年 在 籍 会 員 表 彰

（敬称略）

５０年表彰（　２名）

高　木　敏　豪	川崎南支部	昭和３９年　６月　７日入会
石　井　洋　秀	湘 南 支 部	昭和３９年１２月　７日入会

４０年表彰（　６名）

加　藤　　学	大 和 支 部	昭和４９年　５月　７日入会
中　山　憲　三	横浜北支部	昭和４９年　７月　６日入会
臼　田　健　二	横浜北支部	昭和４９年　７月　６日入会
髙　橋　亨　範	横須賀支部	昭和４９年　８月　７日入会
月　星　栄　学	横浜中支部	昭和４９年１１月２４日入会
横　山　健　二	横浜中支部	昭和５０年　２月　７日入会

３０年表彰（１６名）

高　木　三　就	川崎南支部	昭和５９年　４月　７日入会
吉　田　三千雄	横浜中支部	昭和５９年　４月２２日入会
髙　橋　勇　次	横須賀支部	昭和５９年　４月２２日入会
小　島　博　司	川崎北支部	昭和５９年　５月１９日入会
篠　崎　　薫	湘 南 支 部	昭和５９年　５月１９日入会
田　口　孝　彦	大 和 支 部	昭和５９年　６月１７日入会
猪　越　孝　治	横浜北支部	昭和５９年　６月１７日入会
渡　邊　章　平	横浜中支部	昭和５９年　７月　６日入会
原　田　誠　一	湘 南 支 部	昭和５９年　８月１８日入会
松　爲　信　夫	横浜中支部	昭和６０年　１月２０日入会
尾　池　孝　志	横須賀支部	昭和６０年　１月２０日入会
高　橋　和　裕	湘 南 支 部	昭和６０年　３月１６日入会
下　山　一　幸	相 模 支 部	昭和６０年　３月１６日入会
松　﨑　好　男	相 模 支 部	昭和６０年　３月１６日入会
小　林　　久	相 模 支 部	昭和６０年　３月１６日入会
安　村　玲　子	横浜北支部	昭和６０年　３月１６日入会

永 年 勤 続 職 員 表 彰

３０年表彰（　１名）

千　葉　幸　代	昭和６０年　１月１７日

２０年表彰（　１名）

藤　井　良支江	平成　６年　７月　８日

５０年表彰

４０年表彰

３０年表彰

永年勤続職員表彰

柔の軌跡

第３４回神奈川県柔道整復師会柔道大会

広　報　部

降りしきる雨の中、平成２７年７月５日（日）神奈川県立武道館において、標記大会が開催されました。定刻通りに開会式が執り行われた後、第５回日整全国少年柔道形競技会神奈川県予選会が開始されました。この予選会を目標に厳しい練習を頑張ってきた４組８名の選手が自信に満ち溢れた見事な形を披露しました。選考委員による厳正な審査の結果、湘南宮本塾の前田結菜（取）・佐藤仁太（受）組が優勝し、全国大会への切符を手に入れました。

続けて、形競技会の緊張感がまだ残る試合場で第２４回日整全国少年柔道大会神奈川県選抜チーム予選大会並びに少年・少女の部個人戦（勝ち抜き戦）が行われました。例年よりも参加人数こそ少ないが、試合に向かう少年選手たちの気合い、その選手を叱咤激励する各道場の監督や指導員の声、子供たちを見守り、応援する父兄の方々の思いは例年よりも力強く感じられました。各試合場で熱戦が繰り広げられる中、各学年の選抜チーム予選大会では優勝候補と目されていた選手がその実力を大いに発揮し、４年生代表に真田康四郎選手（平塚）、５年生代表に小野日向選手（古賀塾）、唐木康大選手（寒川）の２名、６年生代表に中山康選手（古賀塾）、新井恒太選手（古賀塾）の２名の選手が選ばれました。

午後からは会員による個人戦、団体戦が行われました。まずは第３８回日整全国柔道大会南関東予選会へ出場する代表選手の選考を兼ねた会員個人の部が行われました。試合場を会員選手が指導する子供たちが囲み、出場する自分たちの先生へ大きな声援を送っていました。３０歳代個人戦は坂本周作会員（横浜西）、４０歳代個人戦は清水泰平会員（川崎北）、５０歳代個人戦は宮本隆弘会員（湘南）が優勝しました。

会員個人の部に続き、各支部から選ばれた会員選手による団体対抗戦が行われました。決勝戦には最多優勝回数を誇る横浜中支部と昨年、その横浜中支部を初戦で破り、破竹の勢いで団体優勝を果たした川崎南北支部が勝ち上がり、白熱した勝負を繰り広げました。試合結果は川崎南北支部が前年覇者としての自負をもって、見事２連覇を達成し、優勝チームの名にふさわしい見事な柔道を会場にいた人々に見せてくれました。

第２４回日整全国少年柔道大会神奈川県選抜チーム予選大会

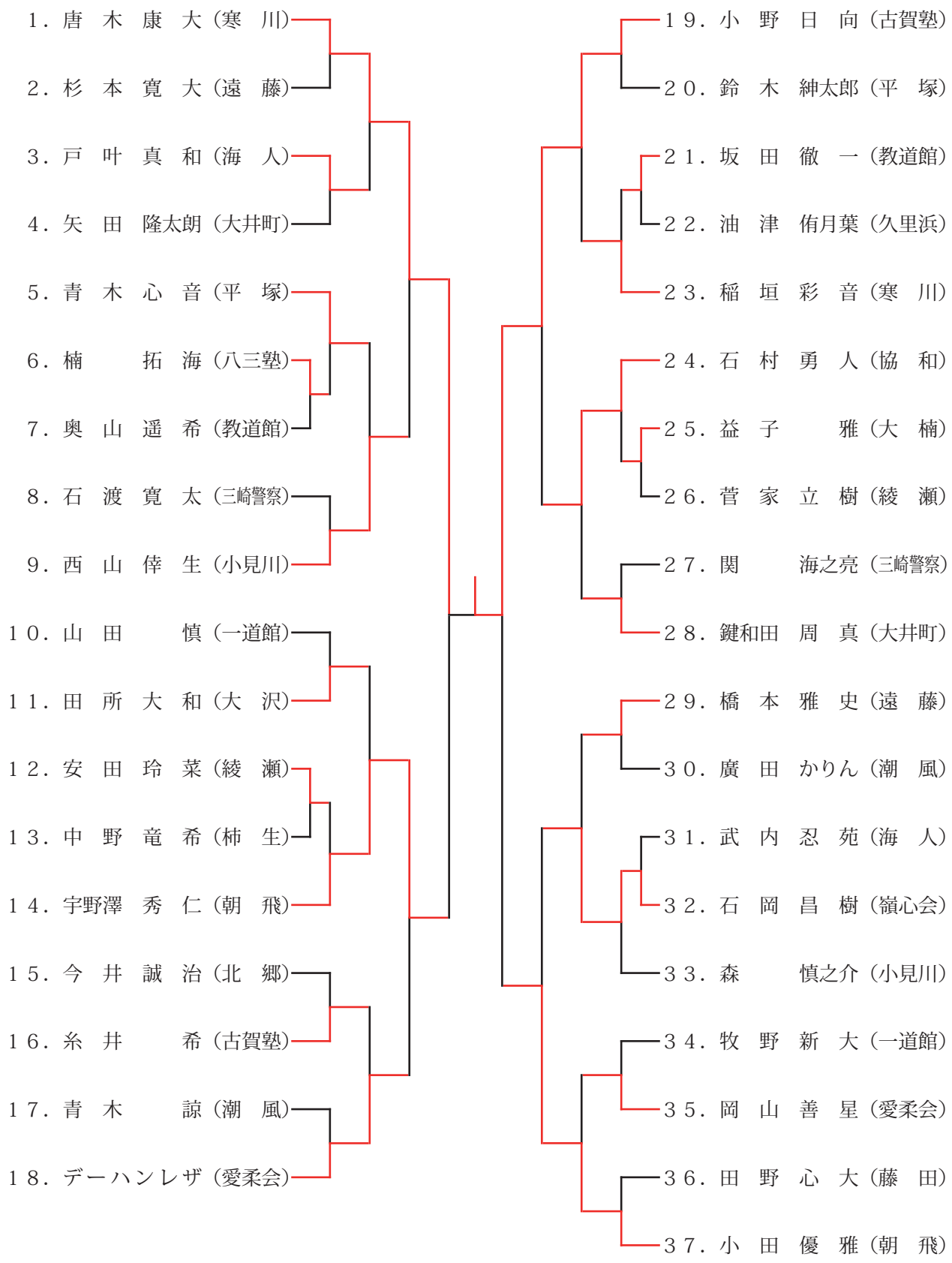
小学４年の部

１．真　田　康志郎（平　塚）
２．大　津　直　也（綾　瀬）
３．鳥谷部　陵　太（港武館）
４．飯　島　太　陽（藤　田）
５．石　原　な　お（寒　川）
６．清　水　行　重（小見川）
７．溝　口　隼　人（八三塾）
８．渋　谷　佳　佑（大井町）
９．川　島　秀　介（冨　吉）
１０．柳　　六　助（逗　子）
１１．根　岸　大　河（長　澤）
１２．中　島　明　夏（龍城ケ丘）
１３．笠　　喜　八（教道館）
１４．内　田　　迅（遠　藤）
１５．青　山　堅太朗（朝　飛）
１６．細　井　寿宇座（潮　風）
１７．加　藤　剛　毅（加　藤）
１８．斉　藤　裕　人（愛柔会）
１９．名渡山　壱　翔（愛　川）
２０．松　岡　　琉（久里浜）
２１．細　田　日　和（北　郷）
２２．山　田　弥真斗（ＮＡＦ）
２３．鈴　木　翔　織（古賀塾）

左：少年柔道大会神奈川県選抜チーム監督・選手
右：形競技会神奈川県チーム監督・選手

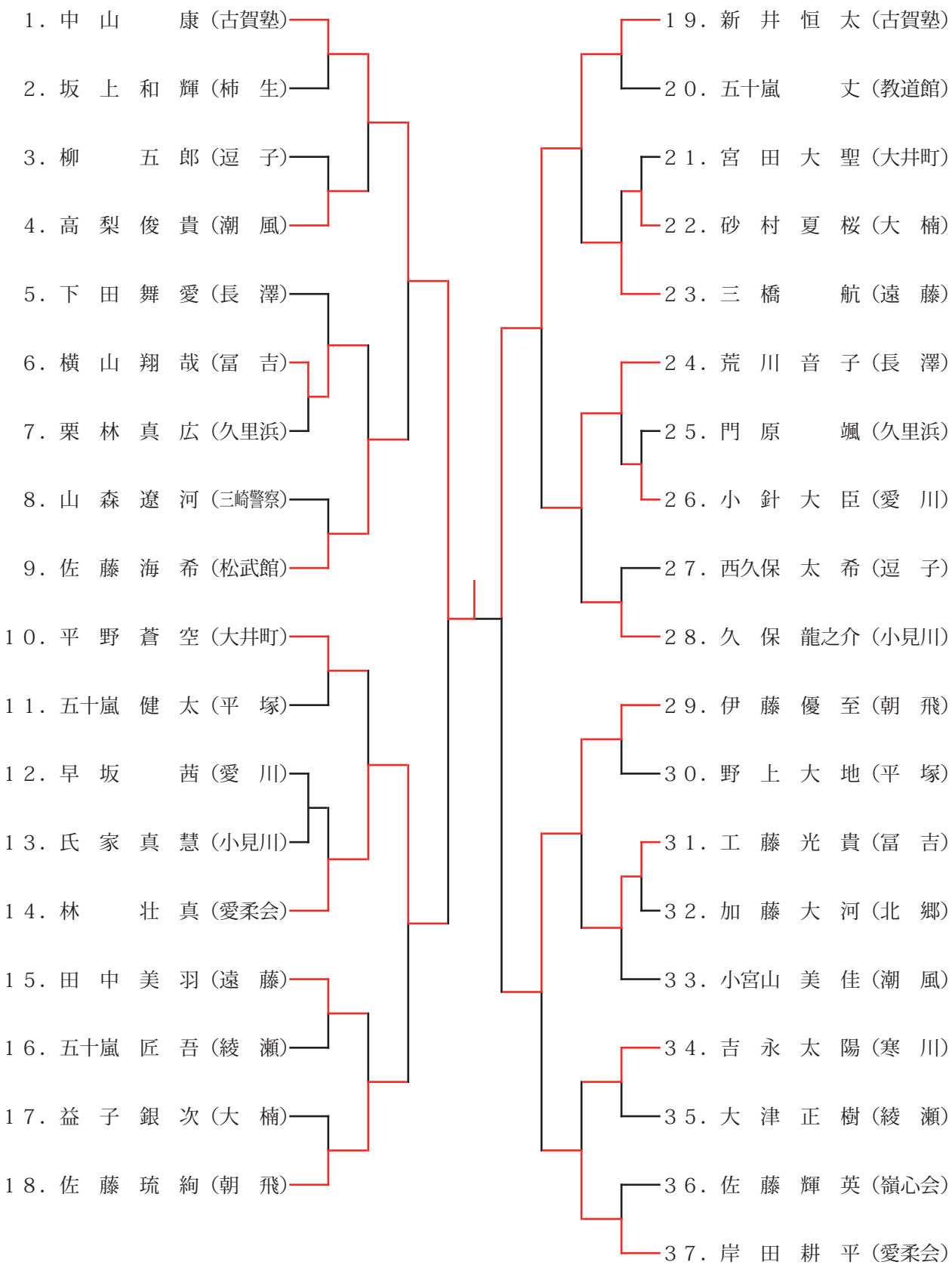
第２４回日整全国少年柔道大会神奈川県選抜チーム予選大会

小学５年の部



第２４回日整全国少年柔道大会神奈川県選抜チーム予選大会

小学６年の部



日整少年柔道大会選抜チームインタビュー

①好きな選手　②得意技　③柔道以外の趣味　④将来の夢　⑤日整大会への抱負

真田康志郎（小学4年・平塚柔道協会）

①真田州二郎選手
②払い腰
③釣り、体操競技
④オリンピックチャンピオン
⑤俺が獲る

小野日向（小学５年・古賀塾）

①古賀稔彦選手
②内股
③マンガを読む、ゲームをする
④オリンピックで金メダルをとりたい
⑤嬉しいメンバーなので力を合わせて頑張ります

唐木康大（小学５年・寒川柔友会）

①七戸選手、王子谷選手
②払い腰
③野球
④オリンピックに出ること
⑤チームの迷惑にならないようにガンバル

新井恒太（小学６年・古賀塾）

①阿部一二三選手
②袖つり
③野球
④警察官
⑤優勝に貢献したいです

中山　康（小学６年・古賀塾）

①阿部一二三選手
②内股
③サッカー、野球
④柔道の先生
⑤相手は自分より大きいけど一本をとって勝ちたいです

第５回日整全国少年柔道形競技会神奈川県予選会出場チーム

柿生青少年柔道会
　取　　坂　上　和　輝（６年生）
　受　　榎　本　　駿（５年生）

湘南宮本塾
　取　　前　田　結　菜（６年生）
　受　　佐　藤　仁　大（６年生）

善　道　館
　取　　村　上　義　洋（５年生）
　受　　渡　辺　祐　大（５年生）

龍城ヶ丘柔道会
　取　　井　上　颯　太（６年生）
　受　　太　平　崇　太（５年生）

日整全国少年柔道形競技会出場選手インタビュー

前田結菜（小学６年・湘南宮本塾）

①松本　薫選手
②大外刈り
③映画鑑賞
④公務員
⑤優勝目ざしてがんばります

佐藤仁大（小学６年・湘南宮本塾）

①高藤選手
②背負投げ
③野球
④警察官
⑤ぜったいに優勝します

会 員 個 人 戦

◎５０歳代

宮 本 隆 弘 七段（湘 南）
徳 留 義 見 七段（相 模）
松 本 鉄 雄 六段（平 塚）

優 勝 宮 本 隆 弘

◎４０歳代

田 所 和 也 参段（相 模）
根 岸 清 道 五段（横須賀）
清 水 泰 平 五段（川崎北）
吉 野 道 夫 四段（湘 南）

優 勝 清 水 泰 平

◎３０歳代

橋 本 大 輝 弐段（大 和）
軽 部 友 和 四段（平 塚）
坂 本 周 作 五段（横浜西）

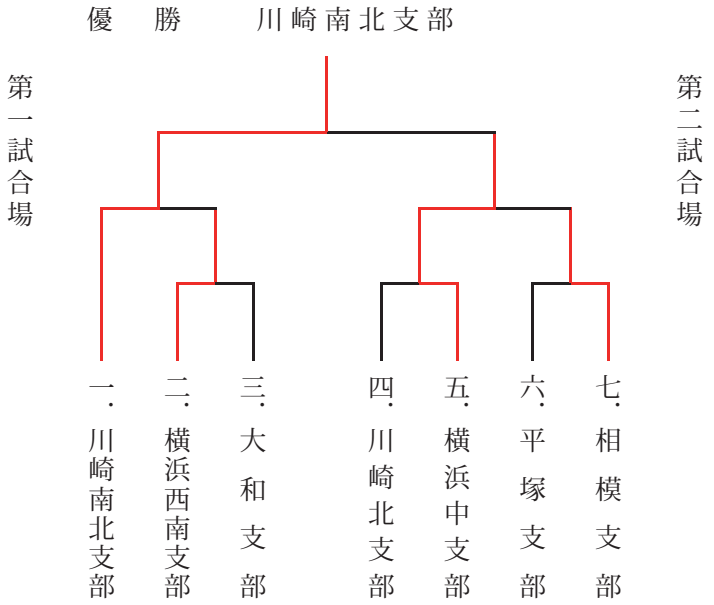
優 勝 坂 本 周 作

☆南関東出場選手

監 督 小川高巧（八段・横浜南）

宮本隆弘（七段・湘南） 徳留義見（七段・相 模） 清水泰平（五段・川崎北）
吉野道夫（五段・湘南） 坂本周作（五段・横浜西） 軽部友和（四段・平 塚）
橋本大輝（弐段・大和）

神奈川県知事杯争奪支部対抗団体戦



団体戦（支部対抗）出場選手

※太字は技能優秀選手

1．川崎南北支部

監　督　六段　髙　橋　昭　雄
先　鋒　参段　菅　井　大　輔
中　堅　四段　**齋　藤　峰　暁**
大　将　五段　**清　水　泰　平**

2．横浜西南支部

監　督　五段　小　林　哲　也
先　鋒　五段　**坂　本　周　作**
中　堅　四段　原　　一　弘
大　将　四段　後　藤　真　一

3．大　和　支　部

監　督　参段　渡　辺　英　喜
先　鋒　参段　橋　本　大　輝
中　堅
大　将　六段　富　田　和　利

4．川　崎　北　支　部

監　督　五段　原　　壯　嘉
先　鋒　弐段　佐　藤　駿　介
中　堅
大　将　弐段　山　岸　耕　二

団体戦（支部対抗）出場選手

※太字は技能優秀選手

5．横 浜 中 支 部

監　督　参段　月　星　栄　学
先　鋒　参段　小　坂　直　也
中　堅　四段　森　　不二夫
大　将　六段　**久　乗　　崇**

6．平　塚　支　部

監　督　五段　土　屋　　馨
先　鋒　四段　軽　部　友　和
中　堅　四段　髙　橋　　誠
大　将　五段　久　米　昭　夫

7．相　模　支　部

監　督　五段　三　好　利　昌
先　鋒　弐段　吉　田　　理
中　堅　参段　**田　所　和　也**
大　将　五段　冨　吉　　司

厚生労働大臣旗争奪第３９回日整全国柔道大会南関東大会

広　報　部

平成２７年８月８日（土）１４時、神奈川県立武道館に於いて、標記大会が開催され記録的な猛暑を上回るほどヒートアップした熱戦が繰り広げられました。

試合は、５０歳代４名、４０歳代４名、３０歳代４名、２０歳代２名、計１４名がそれぞれの年代ごとに日整大会への出場を目指して戦いました。昨年度の日整覇者である本南関東チームはＡ・Ｂ２チームの編成出場となるため少人数での戦いは熾烈を極めました。

日整大会の結果報告につきましては別ページに掲載。

５０歳代
- 薄井敏朗（千　葉　県）
- 徳留義見（神奈川県）
- 石井和弘（千　葉　県）
- 宮本隆弘（神奈川県）

３０歳代
- 池田寿士（千　葉　県）
- 軽部友和（神奈川県）
- 渡邊健司（千　葉　県）
- 坂本周作（神奈川県）

４０歳代
- 岡本雅信（千　葉　県）
- 藤原　章（千　葉　県）
- 清水泰平（神奈川県）
- 吉野道夫（神奈川県）

２０歳代
- 渡邊　公（千　葉　県）
- 橋本大輝（神奈川県）

結　　果

Ａチーム

監　督	森澤秀一（千　葉　県）
大　将	薄井敏朗（千　葉　県）
副　将	清水泰平（神奈川県）
中　堅	池田寿士（千　葉　県）
次　鋒	渡邉健司（千　葉　県）
先　鋒	渡邉　公（千　葉　県）

Ｂチーム

監　督	小川高巧（神奈川県）
大　将	宮本隆弘（神奈川県）
副　将	岡本雅信（千　葉　県）
中　堅	坂本周作（神奈川県）
次　鋒	軽部友和（神奈川県）
先　鋒	橋本大輝（神奈川県）

南関東
南関東
南関東
南関東
吉野
南関東

文部科学大臣杯争奪第２４回日整全国少年柔道大会
文部科学大臣杯争奪第５回日整全国少年柔道形競技会

広　報　部

平成２７年１０月１２日（月・祝）、体育の日にふさわしい快晴のなか、文部科学大臣杯争奪　第２４回日整全国少年柔道大会並びに文部科学大臣杯争奪　第５回日整全国少年柔道形競技会が開催されました。

開会式終了後、講道館７Ｆ大道場に於いて形競技会が行われました。形競技会はＡブロック１５組、Ｂブロック１４組に分かれ、それぞれ予選を行いブロック上位３組が決勝に進みます。神奈川県からは前田結奈選手（取・湘南宮本塾）と佐藤仁大選手（受・湘南宮本塾）が参加し、たくさんの観衆がいる中、見事な形を演武いたしましたが、惜しくもＢブロック４位で予選突破は叶いませんでした。

優勝はＡブロックを圧倒的な点数で通過した愛知県代表が、その実力を決勝でも大いに発揮して見事優勝を飾りました。

形競技会の表彰が終了した後、いよいよ少年柔道大会が始まりました。１回戦シードとなった神奈川県は６年生の中山　康選手が中心となり、しっかりと準備を行い、佐賀県に勝利した大阪府を相手に初戦を迎えました。副将の新井恒太選手（６年生）と大将の中山　康選手（６年生）の活躍もあり、勝利を収めることができました。その後、茨城県を３－１で勝利することでチームの勢いも増していき、続く準々決勝では高知県、長崎県に連勝した岐阜県を相手に先鋒から大将までオール一本勝ちを収め、優勝に向かってチームは最高の状態を迎える事となりました。

準決勝の相手は強豪チームを次々と破って勢いに乗った広島県に決まり、神奈川県の選手たちも更なる強い気持ちで試合場に向かいました。結果は０－１と接戦の末、広島県に敗退いたしました。

試合後、選手たちにチーム監督である古賀稔彦先生が「負ける悔しさを二度と味合わないためには冷静で強気な気持ちを持てるようにならなければならない」とアドバイスされ、その言葉を聞いた少年選手たちは悔し涙をぬぐい、しっかりと前を向いていました。

決勝戦は神奈川県に勝利した広島県と兵庫県に勝利した千葉県が戦い、２－１で千葉県が念願の初優勝を飾りました。

（大会結果）

（敬称略）

文部科学大臣杯争奪　第２４回日整全国少年柔道大会

優　勝　千葉県

準優勝　広島県

第３位　神奈川県・兵庫県

敢闘賞　秋田県・岐阜県・青森県・愛知県

フェアプレー賞　奈良県・大阪府・栃木県・宮崎県

優秀選手賞　佐久間大輔（千葉）・遠藤　大城（千葉）・木原　慧登（広島）
新井　恒太（神奈川）・中村　乾渡（兵庫）

文部科学大臣杯争奪　第５回日整全国少年柔道形競技会

優　勝　愛知県

準優勝　香川県

第３位　北海道Ａ・静岡県

第24回日整全国少年柔道大会
第5回日整全国少年柔道形競技会
第39回日整全国柔道大会
神奈川

第39回日整全国柔道大会
南関東
神奈川
神奈川

真田
神奈川

小野
神奈川

新井
神奈川

神奈川

厚生労働大臣旗争奪第３９回日整全国柔道大会

広報部

平成２７年１０月１２日（月・祝）、晴れ渡る秋空のなか、厚生労働大臣旗争奪第３９回日整全国柔道大会が開催されました。工藤鉄男日整会長の挨拶に続き、会場にお越しくださいました来賓の方々が祝辞を次々に述べられました。優勝杯・準優勝杯返還後、功労者表彰が行われ、本会の坂本周作会員（横浜西）と松本鉄雄会員（平塚）が表彰されました。

華やかに行われた開会式終了後に標記大会が早速行われました。例年は午後から開始された大会が本年は午前中から行われた為、難しい調整を求められる事になりましたが、南関東の選手は早朝よりしっかりウォーミングアップを行い、万全の状態で初戦を迎えることができました。

まずは講道館６Ｆにある学校道場に於いて南関東Ａの初戦が行われました。本会より選ばれました清水泰平会員（川崎北）が副将として善戦をいたしましたが、チームは北関東に１－２の僅差で惜しくも敗退してしまいました。

直後、５Ｆ女子部道場に於いて南関東Ｂの試合が行われました。初戦、東北と対戦し、坂本周作会員（横浜西）、宮本隆弘会員（湘南）の一本勝ちなどの活躍により４－１で勝利を収めることができました。続く準々決勝でもやはり坂本・宮本両選手を中心にチーム一丸となって戦い、九州を相手に３－０で制することができました。準決勝からは７Ｆ大道場で行われ、観客席からの声援も加わり、選手たちも勝利に向かって更に気持ちを強くもって東京に向かっていきました。結果は０－１と僅かな差で敗退しましたが、試合後には悔しさを滲ませながらも来年に向かって更なる向上を誓う選手たちの姿がありました。

なお、決勝戦は前回大会で南関東と決勝で戦った北信越西部に勝利した近畿と南関東Ｂに勝利した東京で行われました。団体戦では決着がつかず、代表戦となり、東京の古賀崇裕選手が近畿の湊谷知幹選手を抑え込み、見事勝利し、東京を４年ぶりの優勝に導きました。

決勝戦終了後、閉会式が行われ、南関東Ｂが第３位の表彰を受け、優秀選手賞に坂本周作会員（横浜西）が選出されました。

【南関東ブロック戦績】

（敬称略）

（1 回 戦）

	南関東A		1－2		北関東
先鋒	渡 邉 公（千 葉）		内 股	○	刈 谷 遵
次鋒	渡 邉 健 司（千 葉）		×		倉 井 康 雄
中堅	池 田 寿 士（千 葉）		内 股	○	菅 野 真 貴
副将	清 水 泰 平（神奈川）		×		嶋 村 和 彦
大将	薄 井 敏 明（千 葉）	○	裏 投 げ		小 椋 国 吉

（1 回 戦）

	南関東B		4－1		東 北
先鋒	橋 本 大 輝（神奈川）		優 勢	○	松 田 幸 泰
次鋒	軽 部 友 和（神奈川）	○	有 効		佐 藤 昭 彦
中堅	坂 本 周 作（神奈川）	○	一本背負い		神 谷 辰 彦
副将	岡 本 雅 信（千 葉）	○	大外刈り		工 藤 渉
大将	宮 本 隆 弘（神奈川）	○	合わせ技		亀 田 泰 文

（準々決勝）

	南関東B		3－0		九 州
先鋒	橋 本 大 輝（神奈川）	○	優 勢		松 田 純
次鋒	軽 部 友 和（神奈川）		×		長 野 諭
中堅	坂 本 周 作（神奈川）	○	横四方固		馬 場 健太郎
副将	岡 本 雅 信（千 葉）		×		檜 山 尚 浩
大将	宮 本 隆 弘（神奈川）	○	横四方固		安 東 鉄 男

（準 決 勝）

	南関東B		0－1		東 京
先鋒	橋 本 大 輝（神奈川）		内 股	○	古 賀 崇 裕
次鋒	軽 部 友 和（神奈川）		×		大 村 昌 弘
中堅	坂 本 周 作（神奈川）		×		杉 本 秀 人
副将	岡 本 雅 信（千 葉）		×		津久井 祐 隆
大将	宮 本 隆 弘（神奈川）		×		斉 藤 文 教

（大 会 結 果）

優 勝　東 京

準 優 勝　近 畿

第 3 位　北信越西部・南関東 B

優 秀 選 手 賞　斉藤 文教（東京）・古賀 崇裕（東京）・湊谷 知幹（近畿）
八本木通秋（北信越西部）・坂本 周作（南関東 B）

南関東
清水
坂本
岡本
宮本
賞状
産経新聞

学の軌跡

特別講演

骨粗鬆症と骨折

JA神奈川県厚生連相模原協同病院
整形外科部長 斎藤 裕先生

学術交流発表

柔道整復術の効果判定にWiiバランスボードを用いた重心動揺とアンドロイド端末を用いた加速度の評価は有用か？

公益社団法人東京都柔道整復師会学術参与
学校法人花田学園東京有明医療大学准教授
久米信好会員

第３７回神奈川県柔道整復学術大会開催報告

広　報　部

平成２７年９月２７日（日）に本会会館にて標記大会が開催されました。本会会員１３４名、勤務柔道整復師など会員以外２６名の計１６０名の方々にご参加いただきました。本会外から特別講師にＪＡ神奈川県厚生連相模原協同病院整形外科部長、斎藤裕医師、学術交流発表に公益社団法人東京都柔道整復師会学術参与、久米信好会員を迎え、熱のこもった発表が行われました。

開会に先立ち、前回大会において第一席に選出された横浜中支部、松爲信夫会員に神奈川県議会議長賞が贈られました。

定刻になり、牧野吉一副会長の開会の辞をもって本大会が開幕されました。プログラム通り、特別講演として斎藤裕特別講師による「骨粗鬆症と骨折」が行われました。統計から見た我が国の高齢者の現状、骨粗鬆症の内科的アプローチと服用する薬の副作用について、並びに豊富な症例を基に高齢者に多く見られる骨折の外科的治療など様々な角度から骨粗鬆症と高齢者の骨折について解りやすく丁寧にご説明いただきました。

午後からは学術交流発表として久米信好会員による「柔道整復術の効果判定にＷｉｉ Ｆｉｔボードを用いた重心動揺とアンドロイド端末を用いた加速度の評価は有用化か？」が行われました。専門の測定器ではなく、市販されているゲーム機やスマートフォンを用いて施術効果を測定するという今までにないテーマをわかりやすく説明していただき、すべての出席者が興味深く聴講することができました。

学術交流発表終了後、本会会員の発表が行われました。前回同様、公益社団法人日本柔道整復師会規定に準じて発表時間８分、質疑応答３分という短い時間の中で、症例報告や新たな評価診断、ボランティア活動報告、柔道整復師の将来への展望など示唆に富む発表がなされました。会員発表者から第一席に選ばれた会員が３月に行われる関東学術大会で発表することになります。

すべての発表が終了し、齋藤武久副会長より発表した会員に表彰盾が授与され、牧野吉一副会長の閉会の辞をもって本大会の閉幕となりました。

斎藤　裕先生

久米信好先生

【特別講演】

「骨粗鬆症と骨折」

ＪＡ神奈川県厚生連相模原協同病院　整形外科部長
斎 藤　　裕 先 生

【学術交流発表】

「柔道整復術の効果判定にWii Fit ボードを用いた重心動揺と
アンドロイド端末を用いた加速度の評価は有用か？」

公益社団法人東京都柔道整復師会学術参与
学校法人花田学園東京有明医療大学准教授　　久 米 信 好 会 員

座　長
駒　井　昌　広・岩　下　博　行

【会員発表】

「第１回横浜マラソン救護を終えて」

前学術部　加賀谷　漢会員・村山　正会員・齋藤峰暁会員

座　長
倉　本　和　男・橋　本　圭　司

「第１肋骨疲労骨折の一症例」

川崎北支部　　小 杉　　奏 会 員

座　長
杉　山　武　史・岡　田　三　雄

「柔整師が時代や社会の変化に応業する手段
～「未病産業への参入」と「伝統医療の革新」の提案～」

横浜中支部　　笠 原　　巖 会 員

座　長
笹　　洋　介・三本木　　学

【会員発表】

「胸鎖関節微脱臼整復後に開口障害が改善した
～９例の施術経験～」

横浜中支部　　松爲信夫会員

座　長
足　立　　唯・笹　　洋　介

「接骨院における足病医学の導入
～オーストラリアの足病専門医から学んだ下肢の
バイオメカニクス評価診断～」

湘南支部　　渡辺英一会員

座　長
山　口　秀　紀・山　﨑　慎　也

「鎖骨骨折　固定保持困難の考察　～失敗症例と反省～」

横浜南支部　　高橋正重会員

座　長
後　藤　真　一・伊　東　典　祐

第３７回神奈川県柔道整復学術大会を終えて

学術部長　並木俊二

平成２７年９月２７日（日)、恒例の神奈川県柔道整復学術大会が１６０名のご参加の下、盛会裡に開催されました。本学術大会は発会時の昭和５４（１９７９）年に第１回神奈川県柔道整復学会と表して開催され、その後３度の名称変更を経て、平成３（１９９１）年に現在の名称となって通算３７回目の開催となりました。

本大会には研究発表と共に、理学療法機器、衛生材料、保険請求システムその他の業者による展示も毎年行なわれていたところですが、本年度は神奈川県柔道整復師協同組合が例年開催している「賛助会員フェア」と同時開催とするという試みにより、８社の協賛会社による展示・販売が行なわれ、午前９時から多くの会員で展示ブースは賑わいました。

午前１０時からの開会式に先立ち、前年度の本学術大会で第１席となり、本県代表として去る３月８日（日）本県主管でパシフィコ横浜会議センターに於いて行われた公益社団法人日本柔道整復師会第３７回関東柔道整復学術大会神奈川大会で発表した松爲信夫会員に神奈川県議会議長賞が授与されました。因みに、後期高齢者（失礼）として関東学術大会の舞台で発表されたのは、恐らく最年長発表者であったのではないでしょうか。

午前１０時からの開会式は、栃木県より半田光男経理部長と高野康弘学術部長、群馬県より眞下順次学術部長、埼玉県より高野光雄学術部長、東京都より浜口高史経理部長など、近県の公益社団法人より５名の理事の来賓のご臨席をいただき開催されました。

引き続き「特別講演」に移り、一昨年に引き続きＪＡ神奈川県厚生連相模原協同病院整形外科部長の斎藤裕先生が「骨粗鬆症と骨折」と題してご講演くださいました。我々柔道整復師の施術所にも骨粗鬆症の患者は少なからず来院するのは各会員共通のところと思われますが、そんな患者の下肢から体幹、上肢に至るまで、いわゆる骨粗鬆症４大骨折の「大腿骨近位部（大腿骨頚部･転子部）骨折」「脊椎椎体圧迫骨折」「橈骨遠位骨折」「上腕骨近位部骨折」を中心に全身くまなく症例を取り上げながらのご講演で、また「コーヒーブレイク」と称されて、スライドの合間々々に目の錯覚により不思議な見え方のする図式模様を挟んで一息入れつつ、１５分間早めの開始であったにも拘わらず、質疑応答の時間も含めて予定終了時間の１２時までタップリと聴衆の興味を常に引き付けながらの１時間４５分でした。

中でも興味をそそられた症例は、大腿骨近位部骨折で髄内釘固定を施した患者が再骨折して、再度プレート固定で処置した例など、脆い骨質の骨折部を金属固定した場合、強度が増して再骨折の危険性は減少するかと思われるところ、油断がならない事を知らされた気がいたしました。一度の骨折で機能低下した患者の再骨折を防ぐためには、患者により近い立場にいる我々柔道整復師が寄り添ってケアすることも大事なことかと感じました。

斎藤先生には、この日もご講演の後に社会保険診療報酬の審査会が控えている中、

無理にお願いしたところご快諾くださり貴重な時間を割いてくださいました。常に柔道整復師に深いご理解をくださり、我々の身近なところでご指導くださる本当に柔道整復師会にはなくてはならない先生のお一人であると感じました。それにもかかわらずご講演終了後には「いつも柔道整復師会の皆さんはとても熱心に聞いてくださる。」「今日もとても楽しく講演ができた。」など有り難いお言葉をいただきました。斎藤裕先生どうもありがとうございました。

充実のうちに午前中の部が終了し、昼の休憩時には賛助会員による1社5分程度のプレゼンテーションがあり、お弁当片手の会員に自社の製品の紹介をしました。協同組合員には2千円の金券が配布されたこともあり、業者のブースで商品を買い求める姿が多く見られました。例年のフェア開催時より出席会員数も多く、賛助会員フェアとしても成功であったと思います。

午後からは公益社団法人東京都柔道整復師会との「学術交流発表」と「会員発表」が行なわれました。

「学術交流発表」は、平成17年、平成24年に引き続き3回目の登壇となる公益社団法人東京都柔道整復師会学術参与で学校法人花田学園東京有明医療大学准教授の久米信好会員による「柔道整復師の効果測定にWii Fitボードを用いた重心動揺とアンドロイド端末を用いた加速度の評価は有用か？」という斬新な発表でした。本来「ゲーム感覚」あるいは「フィットネス感覚」で用いられている機器であるにもかかわらず、目に見える形で施術の効果を測定・評価できる、しかも100万円もする高価な先進機器ではなく、1万円以下でも購入可能な機器での測定ということで、手軽に導入可能であるというところが最大の魅力であったと思います。

続いて行なわれた「会員発表」に6題の発表がありました。

第一演題は前学術部の村山正前学術部長、齋藤峰暁前学術部員、加賀谷漢前学術部員の共同研究による「第1回横浜マラソン救護を終えて」を、代表して加賀谷漢会員が発表しました。第1回大会は2万人、来年3月13日に開催予定の第2回大会には2万5千人が出場予定のこの大規模なマラソン大会の救護にあたることは非常に重要な事業であり、今回の発表を通して更なる統計収集に努め次回に反映させるという意味で、また法人の存在価値を誇示させるためにも、その切っ掛けとなる発表であったと思います。

第2演題は川崎北支部小杉奏会員の「第1肋骨疲労骨折の一症例」で、大変珍しい疾患の発表でした。養成学校時代には「鎖骨に守られている第1肋骨は骨折し難い」と習った記憶があります。その骨折し難い筈の第1肋骨がチアリーディングという頭上での繰り返しの重力に対抗する筋群の緊張で骨折を引き起こしてしまう、というややもすると見落としそうな症例発表は臨床上とても貴重であったと思います。或いは今までも外傷の機転がないことから見落としていたこともあったのではないかと思わされました。

第3演題は横浜中支部笠原巖会員の「柔整師が時代や社会の変化に応業する手段～『未病産業への参入』と『伝統医療の革新』の提案～」で、黒岩祐治神奈川県知事が提唱する未病対策にも繋がる演題で、既に全国各地での講演等で会員のみならず一般にも周知の笠原理論ともいえる「構造医学」を駆使しての発表でしたが、テーマの

大きさからとても８分では語り尽くせなかったことと思います。開業４０年を超えるベテラン会員が将来の柔道整復師が進む道の一端に着目し発表されたということは、本来なら若い会員が考えなければいけないことであると反省させられました。

第４演題は横浜中支部松爲信夫会員の「胸鎖関節微脱臼整復後に開口障害が改善した　～９例の施術経験～」で、前年度発表した「胸鎖関節微脱臼」の整復により偶発的に改善された開口障害（いわゆる顎関節症）の症例を９例紹介されました。松爲会員は単に柔道整復師だけの学会に留めず、可能なら顎関節学会をも視野に入れているそうで、それには一人の症例だけではなく、すぐにでも取り入れられるこの手技を各会員が試みて症例を重ねて行って大きなウェーブにできればと感じます。

第５演題は湘南支部渡辺英一会員の「接骨院における足病医学の導入　～オーストラリアの足病専門医から学んだ下肢のバイオメカニクス評価診断～」で、今回の発表を聴講しただけではなかなか理解できない生体力学への理解を要するハイレベルな発表でした。繰り返しの勉強と実地検査をしないと身に付かないし、そこで得た検査結果を今度は自分の施術に応用しなければならないという“大変な宿題”を課せられ、大いなるプレッシャーを受けたのは不勉強の私ばかりではないと思います。今、柔道整復師における施術の効果を眼下に示せる術（すべ）、即ちエビデンス（科学的根拠）が問われています。交流発表の久米会員の発表にも言えることですが、その意味からこれらの検査による測定結果を施術に活かすことがエビデンスに基づく施術ということで、学術的にも大変価値のあるものであると思います。

第６発表は横浜南支部高橋正重会員の「鎖骨骨折 固定保持困難の考察　～失敗症例と反省～」で、最近どの施術所でも少なくなった骨折の症例報告であり、やはり柔道整復師の学会には不可欠な演題です。協力医療機関の３Ｄ画像など大変分かりやすい多くの写真を織り交ぜ、発表対象となった３症例とも経過が手に取るように描き出されて分かりやすかったと思います。アンケートにも「失敗例を発表するのは勇気のいることで､それを重ねていくことで柔整界の発展に有意義だ」と記されていました。ただ、最終的には良好な結果となっており、ご本人の言う“失敗”には決して当たらないと断言させていただきたいと思います。

今大会の会員発表は７０歳代の松爲会員を筆頭に還暦（！？）を過ぎた笠原､渡辺、高橋の３会員など、しかも過去に第１席で関東学術大会（旧関東学会）に出場経験がある会員が４名で、また笠原、渡辺両会員はテレビ等のマスコミにも出演経験があるなどベテラン勢が目立ちました。そんな中に若手の小杉会員が奮闘され、とても充実した大会であったと思います。

理事・監事・部員・学術支部担当者による審査点数の集計は、下記のとおりとなりました。

第１席　　渡辺英一会員（湘　南）　４４２点
第２席　　松爲信夫会員（横浜中）　４２６点

第１席の渡辺英一会員は、平成２８年３月１３日に栃木県宇都宮市栃木総合文化センターで行われる公益社団法人日本柔道整復師会第３８回関東学術大会栃木大会の神奈川県代表発表者として、第２席の松爲信夫会員は平成２８年９月２５日に立川市市民会館で行われる公益社団法人日本柔道整復師会第３５回東京学術大会の交流発表者

として派遣されることが決定いたしました。

審査結果は結果として、いずれも素晴らしい発表であったのはいうまでもなく、神奈川県の学術の向上と振興にご尽力いただいた発表者全員が第1席の価値があったと感じています。

日々忙しい施術所業務の合間を縫って研究発表くださった会員諸兄、ご聴講くださった多くの会員の皆様、また数名の一般市民並びに数十名の養成学校学生の方々に感謝申し上げ開催の報告とさせていただきます。

来年の更なる充実した大会開催を期して。

第１７回北丹沢１２時間山岳耐久レースに救護員として参加して

大和支部　田　代　優　樹

平成２７年７月５日、北丹沢１２時間山岳耐久レースに救護員として参加してまいりました。私としては昨年に続き二度目の参加ということもあり、その経験を生かし、前回よりもスムーズに適切な処置が行えるよう準備を整えて臨みました。

当院の備品で持参したものとしては、テーピング各種とハサミ、消毒用の道具として酒精綿、ピンセット、ステンレストレイ、折り畳みテーブル、折り畳み簡易ベッド、折り畳みイス、傷の汚れを落とす水を入れるためにヒシャクとバケツ、あと当日は雨との予測がされていたので、雨で濡れての低体温症を予防するために毛布を三枚などを準備しました。

後は相模支部で準備をしていただいたテーピングなどが入っているトレーナーズバッグを一つと主催者側からイソジンなどの消毒キットを段ボールで一箱、寝袋と非常用の保温シートを数個預かりました。

当日は予想以上の悪天候となりました。救護所が設営されている道路は小川のように水が流れ、テントの屋根に穴が開いているのか、雨漏りもしていました。近くにある小さな滝は勢いが強くなっており、昨年とは様相がかなり変わっていました。滝つぼには折れた樹木も見られました。このままでは参加者はかなり危険な環境下での競技となり、救護所に来られる方々の怪我の度合い、人数共に相当なものになるだろうと不安に思いました。

その思いは主催者側も同様に感じていたようで、一部のコースを変更して開催することに決定しました。斜面を走る山岳部の険しいところと怪我をする可能性が一番高いガレ場などのルートが変更され舗装路を中心としたルートになりました。

参加者によっては物足りなさを感じている方もいらっしゃいましたが、あの状況だと主催者側は妥当な判断をされたと感じております。そのおかげで怪我人もとても少なく、捻挫が５～６人、転倒による擦過傷が１０人前後、マメが潰れたなどが１０人前後でした。なお山ビルの被害も無く、心配していました低体温症もありませんでした。

今回の活動は接骨ボランティア神奈川としての活動だけではなく、災害対策の救援救護隊活動の一環となっております。いつものボランティア活動での処置に加え、創傷や出血などにもやむを得ず緊急的に対応しなければなりません。もし災害に襲われたときにはそういった広範囲なことに対応できるような準備をしておかないといけないと実感させられます。道具の準備もさることながら、救急救命処置、蘇生方法も学んでおかなければなりません。そして何よりも心の準備をしておかないといけないと感じました。

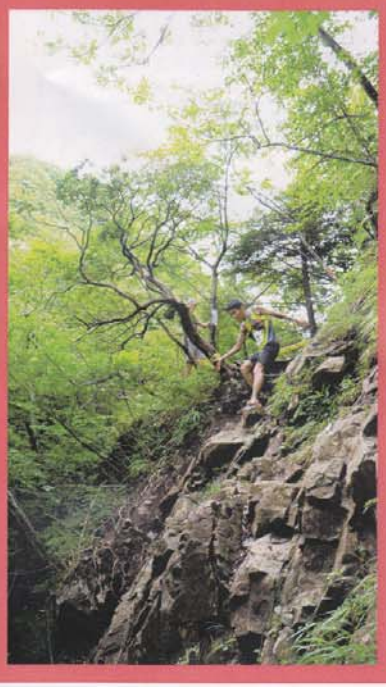
以上で活動の報告を終わります。

標高差１，１４３ｍ　全行程４４．２４㎞　１２時間制限の山岳レース

第17回 北丹沢12時間山岳耐久レース

KITATANZAWA 12H ADVENTURE RACE

開催日 2015年7月5日(日)　**会　場** 相模原市緑区青根 青根緑の休暇村



NESチャンピオンシップ2015開催

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会の指定４大会で【NESチャンピオンシップ】を開催します。
参加条件は、指定大会の出場＆完走です。タイム合計で男女別上位３位を表彰します。

- ◆第１戦：東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース（2015年４月19日（日）開催）
- ◆第２戦：道志村トレイルレースロング（2015年５月10日（日）開催）
- ◆第３戦：八重山トレイルレースロング（2015年６月14日（日）開催）
- ◆第４戦：北丹沢12時間山岳耐久レース（2015年７月 5日（日）開催）

４大会完走タイムの合計時間で順位を決めます。着順は関係無く、合計タイムの少ない男女別上位３位を表彰します。完走者には完走証、オリジナルフィニッシャーTシャツを進呈します。ファイナルパーティー（12月予定）開催時に表彰式を行い、表彰並びに完走証、Tシャツ授与を行います。

主催：神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会

■主　　催　北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会

■後　　援　相模原市、相模原市教育委員会、(公財)相模原市体育協会、(公財)神奈川県体育協会、読売新聞社横浜支局、朝日新聞社横浜総局、tvk（テレビ神奈川）、神奈川新聞社、青根緑の休暇村、いやしの湯、青根地域振興協議会

■協力団体　北丹沢山小屋組合、北丹沢山岳遭難救助隊、㈳神奈川県柔道整腹師会、東要山岳会、藤野山岳会、北丹沢山岳センター、神奈川県山岳赤十字奉仕団、津久井観光協会、雪稜登高会、トレイルサポートクラブ、城山山楽会、東邦航空㈱、青根体育振興会、青根婦人会、日連囃子保存会、のざき薬局、チームのざき、神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会、神奈川県山岳連盟、神の川ヒュッテ友の会、道志村観光協会、陣馬山信玄茶屋、山口自動車㈱YM交通、北里大学病院

■協賛団体　大塚製薬㈱、ラ・スポルティバジャパン、㈱デサント、㈲パワースポーツ、㈱アートスポーツ、SATOHスポーツ、フィールズ㈲、エアモンテ㈱、㈲ロムコーポレーション、オクムラ㈱、㈱フォトクリエイト、青根キャンプ場、神之川キャンプ場、両国屋、湯川屋、鶴屋、このまさわキャンプ場、神奈川県立藤野芸術の家

宿泊施設のご案内

青根緑の休暇村（青根807-2）TEL 042-787-2215／青根キャンプ場（青根緑の休暇村に隣接）TEL 042-787-1380／鶴屋（青根1393）TEL042-787-2153
両国屋（道志村45）TEL 042-787-2023／湯川屋（道志村49）TEL 042-787-2250／神之川キャンプ場（青根3685）TEL 042-787-2116
このまさわキャンプ場（青根2745）TEL 042-787-2735／ホテルルートイン相模湖上野原（上野原）TEL 0554-63-5711
カプセル式ビジネスホテル ファーストイン八王子（八王子）TEL 042-624-1120

LA SPORTIVA　Otsuka　inov-8 × DESCENTE

タイムスケジュール

平成27年7月5日（日）

受　　付　5：00～
※7月4日（土）前日受付
13：00～17：00
青根緑の休暇村

開 会 式　6：00～
開会宣言
大会会長挨拶／大会会長
神奈川県山岳連盟会長挨拶／連盟会長
実行委員長挨拶／実行委員長
招待選手紹介／招待選手の皆様
歓迎の言葉／青根地区振興会会長
来賓激励の言葉／来賓の皆様
競技上の注意／審判長
閉会宣言

スタート（前回大会完走者及びフルマラソン記録上位者6：30／その他7：00）
青根緑の休暇村（フィニッシュ制限12時間）
<44.24kmコース>
青根緑の休暇村（スタート）→平丸→立石建設→鐘撞山→神ノ川ヒュッテ→日陰沢源頭→広河原→神ノ川園地→風巻ノ頭→姫次→平丸分岐→青根緑の休暇村（フィニッシュ）

表　　彰　12：30～（随時）
男子各年代別（16～39歳、40～49歳、50～59歳、60歳以上）
第1位～8位、および女子各年代別（16～39歳、40歳以上）
第1位～8位は表彰します（参加人数により変更あり）。

競技方法及び諸注意

①個人単位にて行います。
②定められた山岳コースのタイムレース方式とします（所要時間の少ない者から順位を決定します）。
③記録計測はICタグにて計測いたします。ナンバーカードと一緒に同封されているICタグをシューズの紐に装着してスタートしてください。
④レースは第1関門、第2関門に制限時間を設け、これを超えた選手はレースを中止し、役員の指示に従い下山してください。
◎第1関門は神ノ川ヒュッテ……制限時間はスタート後、4時間30分（6時30分スタートは11：00、その他は11：30）とします。
◎第2関門は神ノ川園地……制限時間はスタート後、6時間（6時30分スタートは12：30、その他は13：00）とします。
⑤レースの関門を上記の制限時間内にクリアした後、フィニッシュはスタート後12時間を限度とします。
⑥水、行動食、地図、その他各自必要とする装備品を必ず持参してスタートしてください。
⑦ストック・杖およびスパイク等の使用はできません。
⑧コースのポイントには、必要最小限の矢印表示等を設置してあります。
⑨環境保全のため、犬等のペット同伴での参加はできません。
⑩失　格　■ゴミをレース中に投棄した選手
■参加資格を偽って参加した選手
■競技規則に違反した選手
■審判および役員の指示に従わなかった選手
■規定の時間を超えて関門に到着した選手および最終制限時間を超えた選手
■ナンバーカードを着用しなかった選手
■自然保護に違反する行為があった選手
■不正行為があった選手
⑪参加者は競技中に体調、その他の理由で競技を棄権（中断）する場合は必ずコース中の役員に申し出てください。（梅雨明前後、十分に体調を整えて参加すること）

●その他
1．当日は必ず健康保険証を持参してください。
2．レース途中天候が悪化した場合、主催者側で中止することがあります。
3．競技続行が不可能と判断された選手は、役員が競技を中止させることがあります。
4．競技以外の荷物については役員の指示に従い、所定の場所をご利用ください。ただし、貴重品については各自管理してください。
5．コース上のトイレは立石建設、第1関門（神ノ川ヒュッテ）、第2関門（神ノ川園地）、黍殻山避難小屋地点にあります。

救護所

給水所

平成２７年度テーピング講習会開催報告

広　報　部

平成２７年８月３０日（日）本会会館において標記講習会を開催いたしました。小雨が降る中、ベテランの会員から研修中の勤務柔道整復師まで様々な先生方にテーピング技術の向上を目指して参加いただきました。

講師に青柳博会員（小田原）、栗山敬輔会員（湘南）の両名をお迎えし、若い先生の為の基礎技術からベテラン会員のための応用技術まで多岐にわたる講習を行うことができました。

青柳講師には足関節、膝関節を中心に下肢のテーピング講習を、栗山講師には肩関節、肘関節を中心に上肢のテーピング講習をご担当いただきました。まずは若い講習生のためにマニュアル通りの基本的な技術をご披露いただき、その後、現場で必要とされる応用技術についてご説明いただきました。講習生の方々もパートナーをモデルにお手本通りにテーピングを巻き、そのテーピングの改善点を具体的かつ丁寧に両講師に指摘、アドバイスをしていただきました。ベテラン会員の方々も若い先生に交じって、改めて基礎的な技術を復習することにより、応用技術の質の向上につながる事を実感し、基礎技術の大切さを再確認することができました。

本講習会で学んでいただいたテーピング技術を施術所や各種競技会の救護所、災害訓練の場で活用していただき、それらの現場で生じた疑問を次回の講習会で確認していただく事により、更なる技術向上につながることができると思います。今後も会員のみならず勤務柔道整復師の先生方にもお役に立てるような企画の講習会を開催してまいりますので、進んでご参加いただきます様お願いいたします。

ビッグレスキューかながわ

平塚支部　村　井　薫　一

平成２７年８月３０日（日）厚木市「ぼうさいの丘公園」にて神奈川県管轄による大規模な防災訓練であるビッグレスキュー防災訓練が実施されました。今年の主管が厚木市ということで、4月２２日の全体会議から始まり「あつぎシティプラザ」と「合同庁舎」にて各医療機関の防災担当と共に作業部会を重ね、医療救護訓練の主題となるトリアージから救護処置に至る過程を想定し綿密な打ち合わせもって行って参りました。

そして迎えた当日、「ポロンポロン、ポロンポロン」と誰しもが耳にして不安感をおぼえる緊急地震速報と「ただいまマグニチュード７.３、震度の６強の地震が発生しました」との放送が霧雨立ち込める会場に響き渡り、開始早々から各医療機関参加者が高い緊張感に包まれて訓練が開始されました。

訓練そのものは、自治体から協力していただいた５０名から６０名ほどの模擬負傷者を第１陣から第３陣まで漸次救護所へ投入していき、医師がトリアージした後、我々柔整師と看護師が応急処置を行うというものでした。

第１陣開始とともに参加して下さった厚木地区の会員と看護師の方々と共に全力で模擬負傷者の救護にあたりました。

平塚支部厚木地区の会員方々とは事前に打ち合わせ会も行い、当日は７名の会員がそれぞれに高い技術をもって救護訓練にあたりましたが、頭部外傷と上肢外傷を想定した負傷者が比較的多く途中で包帯や三角巾、副子などの固定材料の受け渡しに滞りが発生し、備品の確認や指令系統の強化などいくつかの反省点が浮き彫りになり繰り返し訓練を行う必要さを改めて痛感した本訓練となりました。

訓練終了直後には当会員方々の意見や反省点として①柔整会のぼり旗の設置②現場での備品の在庫確認（医療具だけではなくダンボールの切れ端や新聞紙雑誌など日用品）とその受け渡し方③現場で指示する先生を一人確立してその組織力を強化する④これらの反省点を次回のビッグレスキューなど防災訓練担当者への引き継ぎをするべき、など忌憚のない議論が交わされ、参加された先生方の高い救護意識に感銘をうけました。

特に過去に東日本大震災救護ボランティアを経験なさった辻村克己会員による「柔整師のできる救護は一次救護と二次救護があって、一次は応急処置そのものでありこれは柔整師であれば誰でもできて必ず行わなければならないが、二次救護は災害で傷を負った方々へ声のかけ方であったり、応急処置後の後療をいかに良くするかなど負傷者の心のケアに向けた救護が二次救護である。この二つを我々柔整師は率先していかなければならない」との意見が大変印象的でした。

私は４月からこの訓練に携わってきて無事に終わった事に安堵の念を覚えたのと同時に、上記の反省点や意見は明日からの柔整業務にも共通するものであると強く感じ、防災訓練や救護訓練の大切さを再確認できた１日となりました。

そして、その大切さをすべての柔整師が忘れずにいることが柔整師界の発展にも繋

がるものと信じて平成２７年度ビッグレスキューかながわの参加報告と致します。

ＫＧＣ　平成２７年度春季大会開催報告

ＫＧＣ　宮　本　嘉　保

平成２７年４月２９日（水－祝）、標記大会が大磯町のレイクウッドゴルフクラブ西コースで開催されました。当日は良い天気に恵まれて、みどりの日に相応しく春の柔らかい陽射しをうけて新緑が光り輝いている中、５組１９名が各々優勝目指して順にスタートして行きました。昨年の春季大会は東コースで開催いたしましたが、東も西も森と泉の中のなだらかな丘陵コースには変わりなく、上手な人は腕の見せ所が多く求められ、そうじゃない人は林と池に捉ってばかりと言った具合でした。奮闘奮戦を制して、結果は以下の通りとなりました。

優　勝－上倉隆男　　準優勝－川口禮敬　　第３位－新谷久志
第４位－鈴木國夫　　第５位－柴崎真志

大会終了後には、平成２７年度定例総会が開かれました。平成２６年度事業報告並びに収支決算報告、平成２７年度事業計画案並びに収支予算案が満場一致で承認されました。また、本年度はＫＧＣ役員改選の年に当たり、会長には川口禮敬会員、総務担当には石井重一会員、経理担当には鈴木國夫会員がそれぞれ満場一致で再任されました。定例総会の後は表彰式に次いでパーティがあり、和気藹々とお互いの健闘を称え合って、次回の大会へ夢と希望を胸に膨らませながら楽しく歓談いたしました。平成２７年度大会は次の通りです。

春季大会　平成２７年４月２９日（水－祝）　レイクウッドゴルフクラブ
秋季大会　平成２７年１０月３日（土）・４日（日）　小名浜オーシャンゴルフクラブ
冬季大会　平成２８年１月１１日（月－祝）　厚木国際カントリークラブ

掲載の写真は、この度の春季大会のパーティ会場で撮影いたしたものです。ごらんの通り、ＫＧＣ会員も随分と高齢化が進んできております。どうか、エネルギー溢れる若い先生方をお待ちいたしておりますので、入会をご希望の方は県事務局までご連絡くださいますようお願いを申し上げます。

「当然の中に、必然」

総務統括部長　小　舘　智　治

私が、郷里、津軽弘前を後にして約４０年の月日が経ちました。先日、日整会館で開催された日整総会に、代議員として出席する機会がありました。私は、その都度、上野駅周辺の様変わりに、日々の移ろいの速さを身にしみて感じます。

私の柔整師としての４０年近くの歳月は、故郷で過ごした約２０年の時を遙かに越えました。今、神奈川県民、横浜市民、戸塚区民である私が、接骨院を開院して、また、理事として現職にあることは、会員各位のご指導、ご鞭撻の賜物であると確信しています。

ところで、私の故郷弘前出身の作家である、石坂洋次郎は、菊池寛賞の受賞パーティで、「健全な作家」というレッテルに反撥し、席上で「私は、私の作品が健全で常識的であるという理由で、今回の受賞に与ったのであるが、見た目に美しいバラの花も、暗いじめじめした地中に根を匍わせているように、私の作品の地盤も、案外陰湿なところにありそうだ。きれいな乾いたサラサラした砂地ではどんな花も育たない。」と話しました。なるほどと、頷きたくなる心意気が、私を育んでくれた「津軽」にはあるのかもしれないと、思いました。その彼が、「薔薇ノ木ニ薔薇ノ花サク　ナニゴトノ不思議ナケレド」と表現しています。この当然であるというむずかしさを、津軽の自然は教えてくれます。私は、厳しい冬を越えて期待を裏切ることなく咲いてくれる桜の中にいると、知らず知らず柔らかい気持ちになっていることに気づかされます。

「バラ」といえば、方言詩人であり、眼科の開業医であった津軽の詩人高木恭三の命日１０月２３日に毎年「津軽弁の日」が開催され、メディアを通して津軽の文化が紹介されています。詩集「まるめろ」のマルメロは、バラ科の樹木であり、桜花散る６月頃に花が咲き、桜に負けないほどの艶やかな花を咲かせます。

石坂洋次郎の弘前のリンゴ園にある石碑に、「物は乏しいが、空は青く、雪は白く、林檎は赤く、女達は美しい国、それが津軽だ。私の日々はそこで過ごされ、私の夢はそこで育まれた。」とされています。

津軽の作家太宰治もまた、「津軽」で「桜花に包まれた天守閣は・・・」として、津軽の風情をとおして、筆を進めました。

私も、津軽出身者としての矜持を忘れず、時には立ち止まり、柔整師として業界の進むべき方向を模索しながら、当然の中に必然の努力を忘れず一理事として計画、立案を積極的に推し進めていく所存です。

支部長会代表挨拶

支部長会代表　矢　澤　正　司

今期支部長会代表を務めさせていただきます、横浜西支部の矢澤正司と申します。平成１５年４月に初めて横浜西支部長に就任いたしまして平成１９年３月まで２期、平成２３年４月に再度支部長に就任し３期目になり、計５期目の支部長を務めさせていただいております。その間、支部長会では経理、総務と経験させていただきました。

平成１５年４月に初めての支部長就任より早１２年の月日が過ぎ、その間の最大の変化といえば、社団法人神奈川県柔道整復師会から公益社団法人神奈川県柔道整復師会に移行できたことで本会としては大きな転換期だったと思えます。この公益社団法人の取得で今後良い波に乗れればよいのですが、しかし社会の景気は決して上向きではなく、柔道整復師の業界にも徐々に保険の締め付けが始まり、他団体の会員も増加し、本会各会員の収入も減少の傾向だと聞いております。

公益社団法人神奈川県柔道整復師会の経理関係も厳しい状態らしく、当初の支部長会は社団より予算をいただき、交通費の支給から会議費など予算内で支給、運営しており、各支部と同じ形態でした。しかし、現在では支部長会も昔あった予算もなくなり、各支部長への手当でやりくりしている厳しい状態であります。

母体である公益社団法人日本柔道整復会も、他団体との差別化を図ろうと奮闘していると聞きますが、その下部組織である公益社団法人神奈川県柔道整復師会も何とか良い方向に向かい低迷しないようにするには、公益社団法人神奈川県柔道整復師会の各理事と会員の意見交換が必要だと思います。そこで支部長会としては、少ない総会等では、なかなか会員の意見が届かないところを、支部長が会員の声を支部会で取りまとめ、支部長会に上げて審議し、（公社）理事が納得できる会員の意見を要望書に作成、（公社）理事会に提出し意見を伝える中継ぎとなり、少しでも良い方向に向かうように伝達する役割ができれば良いと思います。これからも支部長会一丸となり勤めて参りますので、小さなことでも支部会で話し合い支部長会へ上げていただきたく宜しくお願いいたします。

公益社団法人神奈川県柔道整復師会も会長はじめ理事の皆様も、会員の為になる会を目指していると思います。

支部長会も、そのお手伝いを少しでもできるよう努力して行きたいと思いますので、会長はじめ理事の皆様、また、会員の皆様のご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

意志あるところに道は開ける

横須賀支部長　根　岸　清　道

この度、横須賀支部支部長を務めることになりました根岸清道です。未熟者ではございますが日本柔道整復師会の一員としてプライドを持ち、神奈川県のため、横須賀支部のために専心努力して参りたいと考えています。

この機会に、私がこの職業に就いた経緯や今後の抱負を書いてみようと思います。

現在、横須賀市長沢町で父の後を継ぎ２代目として「ねぎし接骨院」と「長澤武道館柔道場」を経営しています。

私は、昭和４８年４月に根岸家の次男として生まれ、３歳から自宅に隣接した接骨院や道場で２つ年上の兄､豊(元全日本強化選手)と共に幼少時代を過ごしました。父、清人は元警視庁に勤務しており、小さい頃から大変しつけが厳しくスパルタでした。母、ハツ枝は横須賀の才女でとても賢くて優しい人でした。祖父、房吉は残念ながら私が生まれる前に亡くなってしまいましたが、共働きの両親に代わり祖母、ヤスからも愛育され色々なことを教わりました。父、清人は警視庁を早期退職し、昭和５１年に柔道場と接骨院を開業しました。今思えば、小さい頃から父の背中を見て育ち、人に感謝される仕事である「柔道整復師」の道を必然と選んだのだと思います。

ところが、決して私の人生は順風満帆ではなく、幸せだった根岸家に突如悲劇が起こりました。昭和６３年のことです。

私が中学３年生の５月に大好きだった母を膵臓ガンで４６歳という若さで亡くしました。今までの人生の中で一番悲しみました。そんな中、父も毎日の晩酌の量が増え同年８月に脳梗塞で倒れたのです。祖母からの連絡を受けただちに病院へ行き、右半身が麻痺して、よだれを垂れ流している父の姿を見た時は、中学校を退学して根岸家のために働こうとさえ考えました。しかし、父本人の努力はもちろんのことですが、医師や友人の柔道整復師の先生の懸命な治療により、１年後に奇跡的に復活をしたのです。私は、今でもあの時は亡くなった母が天国から父を助けてくれたと固く信じています。この時期、母を亡くして辛く苦しい時代を支えてくださった皆様には、今でも心から感謝しています。ありがとうございました。

平成元年に柔道の名門である桐蔭学園高等学校に入学することが出来ました。高校生活では寮に入り、とても厳しかったのですが夢や目標を失わず、インターハイは逃しましたが国体と全日本ジュニア選手権に出場することが出来ました。その頃の夢は、早く自立して稼ぎ父や祖母を少しでも楽にしてあげたいということでした。

人生設計としましては、

１．中学体育教師　２．警察官　３．実業団に入ること　でした。そのためには、柔道の実績がとても必要でした。やっとの思いで実績を残し、筑波大学への推薦も決まり、中学体育教師を目指そうとした時、根岸家でこれからのことを話し合いました。高校３年生の１１月の頃です。

当時、日大柔道部に所属していた兄、豊が「俺は家業を継がない」と言いだしたの

です。私は正直、大変ビックリしました。今まで家は兄が継ぐものだと思っていたからです。兄が継がなければ、父が頑張って築き上げてきた接骨院や柔道場はいったい誰がやるのだ。私は何日か悩み考えた末に“根岸家は私が継ぐ”と決心しました。その時に、人生とは“上り坂”“下り坂”そして“まさか”という坂が本当にあるのだと思いました。

高校卒業後、帝京医学技術専門学校へ入学し、見習いとして東京都調布市戸部接骨院で働き、平成７年に「柔道整復師」の国家資格をとりました。もっと色々なところで修業がしたいと考え、埼玉県白岡中央病院や千葉県本八幡整骨院、薬園台駅前接骨院などで働きました。

平成１０年、父がまた脳梗塞を発症したので横須賀へ戻り、二人で接骨院と柔道場を営みました。それからは、父の再婚など擦った揉んだがありましたが、父に対しては感謝の気持ちで一杯です。父は平成２４年１月に家族が見守る中、７１歳で亡くなりました。

現在、私には５つの夢や目標があります。

１．愛する妻を幸せにすること、かわいい子供達を立派に育て上げること

根岸家の家系は短命であるため、この温かい家族と共に少しでも長く一緒に居たいと思っています。

２．地元地域の方々の健康と笑顔に少しでも貢献し「ねぎし接骨院」を繁盛させること

現在の我々の業界は大変厳しい状況です。同業者の急増、療養費改定時の部位数の削減、保険組合の負傷原因の文章照会による受診抑制、また、学校内の怪我では整形外科に受診する傾向が一段と顕著になっています。高齢者においては、デイサービス施設の急増、保険制度改定による度重なる患者負担の増大による受診抑制。このようなことが影響し、実際に収入が減ってきています。対策としては、施療内容や診療時間など他院との差別化を図る。そして、今まで以上に、来院してくださる患者様一人ひとりを大切にしていく他はないと考えています。

３．長澤武道館柔道場から、心を持ったオリンピック選手を輩出する

現在期待しているのは、慶應義塾大学３年の後藤隆太郎選手です。彼は、去年世界ジュニア大会で優勝し、東京オリンピック選手候補とも言われており、これからの成長がとても楽しみな門下生の一人です。

４．私と縁のある全ての人々が「幸せ」になること（ちょっと綺麗ごとですが）

“人の不幸は蜜の味”なんて良く耳にしますが、私には全く理解できません。“他人の幸せが自分の幸せ”と感じる人が真の幸せを掴む者だと思うからです。

５．日整全国柔道大会の南関東チームで「優勝」すること

今までに、第３位、準優勝の経験をさせていただきましたが、死ぬまでにはどうしても「日本一」になりたいと思います。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、ご健康にご留意のうえ、今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

四肢からの他動的左右対称運動の必要性

横浜西支部　福　永　幹　夫

太極拳などの動的気功術は、身体の動きによって内臓の働きを良くして、身体を健康にします。

動きによって内臓の調子を良くすることが出来るとしたら、内臓の働きが身体の動きを左右するということになります。

人間の身体は完全に左右対称に出来ている訳ではないので、意識的に左右対称に動こうとしても、そう出来ないところが必ず出て来ます。その動きの違いが運動領域の停滞（動かないところ）に繋がり、東洋医学で言う経絡の流れ等を悪くするのであれば、反対に、動きによって領域の停滞を良く出来れば、経絡の流れ等も良くなります。よって、内臓の働きも良くなると考えられます。

動的気功術は基本的に左右対称運動です。その各々の動きが個々の内臓に影響を与えます。だとしたら強制的に四肢からその運動を左右対称に与え、その運動エネルギーを体幹の角度を工夫するなどして、目的の部位へ干渉させ、働きを良く出来る、という理論が成り立つのではないでしょうか。

富士登山の感想文

大和支部　川　合　　茂

「富士山へ二度登るバカ、一度も登らぬバカ」などと言われる富士登山、私は五回バカり登りました。何回登ってもいいんです。

登山ルートには、山梨県側の富士吉田口、静岡県側の御殿場口、須走口、富士宮口の四つがあり、今回は八月初め御殿場口から頂上を目指すルートに挑戦しました。

御殿場口新五合目から頂上までの標高差は２２００メーターで他の登山口より１０００メーターほど下に位置します。

新五合目の大石茶屋で１泊、当日の宿泊客（５０人は収容できるであろう）は二人で、一人は写真を取るのが目的で、登山が目的なのは私一人、なんと静かな山小屋だったか。

早朝、ひんやりとした富士山の風を受け、“じゃりじゃり”と火山砂利を踏みしめながら大石茶屋を後に頂上を目指す。

歩き続けること一時間、日の出とともに左に二つのお椀を伏せた形の双子山が仲良く並ぶ、左上には宝永年間に大噴火を起こした宝永山が大きな噴火口を抱えるように見える。そして遥か彼方富士山麓の緑の中、別名三日月湖と言われる山中湖が青く横たわっている。まさに至福の時である。

途中、振り返ると、遠く長い登山道のうねりの中一人二人と登って来る登山者、夏の青空の光は強く、火山砂利を踏みしめ一歩出しては半歩下がる登山道を、ただひたすらに頂上目指して歩くだけ。

３時間余り登っただろうか六合目（頂上まであと１０００メーター）へ到着、疲労困憊の体には水がなんとうまいんだろう、五臓六腑に染み渡る。

何も考えずに１時間くらい登る、七合目に到達、足の内太ももの痙攣が止まらない、足の位置を変えるだけでも痛い、こんなに苦労するものなら金輪際来るものかと思いながらも八合目の赤岩八号館へ（頂上まであと３００メーター）着。太ももの痙攣はとれたものの、岩場に腰を下ろし、剣ヶ峰に続く九十九折りの急な登りを見上げると、もう登る気力がなくなり切歯扼腕の思いで下山を決める。

帰りは早い、火山砂利に足首まで埋まりながら広大な大砂走りを一気に下山、山小屋で顔を洗い砂のつまった登山靴をサンダルに履き替え、ベンチに腰掛け山頂を仰ぎ見ながら食べた氷イチゴの冷たさが忘れられない。

２０１３年に世界文化遺産に登録された富士山、眺めるには良いけど登るにはなかなかきついです。

もう登りたくないと思っていたけれど翌年同じルートで再挑戦しました。

～短編小説～

ぬ　く　も　り

平塚支部　岩　﨑　信　哉

ドーン！

地面を揺るがして、大きな音がした。
一瞬で私の周りは闇に包まれた。

『落盤・・・か？』

私は一人つぶやいた。

『ついていないな。来るんじゃなかった。』

私は心の中で毒づいた。
富士山がユネスコ世界遺産に登録されてから、その周辺はちょっとした『特需』だった。テレビで特集が組まれ、別段、登山に興味がない者でも、惹かれてしまう。
人は根本的にミーハーなのだ。
ご多分に漏れず、私もミーハーの一人なのだが、山に登るまでの根性は持ち合わせていない。
車で富士山麓をドライブして、あちこちにある風穴や氷穴を巡っていた。
風穴や氷穴は、傾斜も厳しくなく、それでいて冒険気分は存分に味わえる。
にわか富士山ファンにはうってつけのスポットなのだ。
しかし、入場中に落盤するなんて私も運がない。
１０メートル間隔で灯っていた電球は一瞬で消えて、まさに漆黒の闇だ。
一歩も動けない。

『なんてこった！』

思わず声が出る。

『あの・・・』

若い女の声がした。

『はい？』

『あの・・・すみませんが手を繋いでもらえませんか？私・・・暗闇が怖いんです。』
『・・・別に構わないですよ。どうぞ・・・』

程なく、闇の中で女の柔らかい手が触れた。
女はフーッと安心したようなため息をついた。

『おかしいでしょ？子供じゃあるまいし、暗闇が怖いなんて・・・』

ささやく様に女が話始める。

『いや、こんなに真っ暗なんて事、今の世の中ではなかなかあり得ない状態だから･･･無理もないよ。』

『ありがとう、あなたって優しいのね。』

『・・・僕も助かるよ。こんなに狭い風穴の中の暗闇だもの、怖くないって言ったら嘘になる。』

『男の人でも怖いの？』

『怖いさ。手を繋いでくれて、ありがたいのは僕のほうだよ。』

『本当に優しいのね。』

一緒に巻き込まれた観光客が騒ぎ始めた。

『救助はまだか！』

『責任者出てこい！』

『非常灯は備えていないのか！』

怒号が飛び交う。
風穴の中に流れている、地下水脈の轟音が恐怖感を倍増させるのだ。

『助からない・・・のかしら？』

女が不安げな声を出して、強く手を握ってくる。

『大丈夫。直前に揺れは感じなかった。地震が来て落盤したんじゃないみたいだから。

救助隊はここに集中しているはずだ。』

『冷静なのね。』

いや、希望的観測だ。
自らと女を落ち着かせる為に根拠のない仮説を言っただけなのだ。

『頼もしい・・・ここから出られたら、あなたとゆっくりお話がしたいわ。』

『僕もだよ・・・』

闇の中、何時間が過ぎたのだろう・・・
怒鳴っていた奴等も、疲れたのかだんだん静かになっていった。
女も疲れたのか、口数が減ってきていた。
でも、それが唯一の頼りなのか、繋いだ手は決して放そうとしなかった。

『喉が渇いたな・・・』

『・・・私も。』

『ガムでも持っていればよかったよ。』

『・・・』

ほんの数時間、水分を摂れない事がこんなにツラいなんて・・・

その時だった。

ダダダ

とドリルのような音が聞こえ始めた。
周囲から期待に満ちた声が上がる。
音は少しずつ大きくなり、声は歓声になった。

女の手にも力が入る。

ガガガ！

耳をつんざく、破壊音と共に、数時間ぶりの光が目に飛び込んできた。

『やった！助かるぞ！』

私は思わず叫んだ。

女が繋いでいた手を離した。
私は女とハイタッチをして、喜びを分かち合う・・・

はずだった。

ハイタッチで上げた両手を迎えてくれる手はそこにはなく、光の方向を振り替えると、観光客が我先にと、争うように、風穴を這い上がって行くのが見えた。

私はバカみたいに、両手を上げたまま、取り残されていた。

▼
『お疲れ様。よく頑張りましたね。』

救援隊の一人から、ミネラルウォーターのペットボトルが渡された。
一口含むと、乾いた砂に染み込む様に、体が甦る。
私は冷静に周囲を見渡した。
思いのほか、たくさんの人が閉じ込められていた。
初老の人から、学生、家族連れ。
男女それぞれ。
若い女性もたくさんいた。
私は闇を共に乗りきった女を目で探していた。

しかし、すぐに辞めた。

どの女を見ても、ペットボトルに下品に吸い付き、喉を鳴らし水を飲んでいるのだ。
さながら妖怪を連想させる形相だ。

それだけじゃない。

救援隊が配っている、握り飯を、ろくに礼も言わずに奪い取る様にして、しゃぶりついていたのだ。

『浅ましい・・・』

あれが人の本性なのか？
どの女を見ても、口から米粒をこぼしながら、むしゃぶりついている。

もう探す気にはなれなかった。

闇の中は確かに恐怖だった。

でも、あの中で感じていた、安心できる『ぬくもり』は、美しい思い出として残しておきたいと思った。
『衣食足りて礼節を知る・・・か。』

私は、握り飯をくれた救援隊の一人に深々と頭を下げて、餓鬼と化した集団から逃げる様に歩き出した。

完

川崎北支部　支部会＆納涼会

川崎北支部　宍　戸　真　弓

平成２７年７月１８日　溝の口　中華料理店「桂林」にて、支部会と納涼会が行なわれました。学校が夏休みに入っての３連休の初日の割には、出席率が良く約３０名が集まりました。今期新しく総務部長に就任された山岸会員の司会進行で始まりました。最初に原支部長がご挨拶をされ、色々な業務連絡、現在の支部の状況等を話されました。続いて、新入会員紹介では、髙橋宏友会員が皆クールビズの軽装の中、きちっとネクタイとスーツ姿でやや緊張した面持ちで挨拶をされていました。その後の宴会でも各テーブルを回り一人一人に挨拶をしていたのが印象に残りました。その後、各部報告が行なわれ、特に、保険部の報告では、大貫会員から最近の状況の説明がされた他に、会員からも質問が相次ぎ、保険請求に関して各会員が悩みや戸惑いの多い事を物語っていました。

重い話が終わったところで、皆さま酔っぱらいになる前に、集合写真撮影を行ない、納涼会に突入致しました。神柔整副会長の齋藤武久先生が来賓でお越し下さり、貴重な情報やお話を伺いました。今回は緊縮財政の折、これといったイベントは致しませんでしたが、毎年恒例のお約束、７月５日の県柔整柔道大会で、原支部長が撮影された動画を大スクリーンで高橋総監督、原監督の解説で観戦しました。川崎南北連合チームは他の強豪チームを押え昨年１８年ぶりに優勝！今年なんと二連覇！というほとんど神がかりか奇跡に近い快挙を遂げ、ビデオ観戦も大いに盛り上がりました。菅井大輔選手の美人妻と可愛いお嬢様の応援に応えてのカッコイイ一本勝ち、病み上がりで高熱を押して出場し「気合い」と「ど根性」で活躍された斉藤峰暁選手、三度の飯より柔道の試合が大好きな清水泰平選手も超美人の奥様とお嬢様の応援で大活躍、絆を感じる感動の試合でした。実際に試合をご覧になった会員は少ない為、原監督の解説や清水選手の補足説明も面白くて、皆非常に楽しんで居られました。宴もたけなわでありましたが、最後は個人戦でも優勝を果たし、皆から祝い酒を飲まされた（自ら飲んだのか？）すっかり呂律が回らなくなった口調で清水会員が閉会の辞を述べて

（笑）散会となりました。清水選手のその後（？）が心配されるところではありましたが（^__^;）皆様それぞれ楽しそうに二次会会場へ繰り出して行きました。

平成２７年　川崎市総合防災訓練

川崎北支部　宍　戸　真　弓

毎年、発生の切迫性が危惧されている首都型直下型地震等、地震災害、近年の異常気象に伴い多発する豪雨災害に対し、自助・共助・公助の理念に基づき、
市民、企業、市及び防災関係機関等が一体となった実践的な防災訓練の実施を通して、防災意識の高揚と地域防災力の強化を図ります。

今年は、８月３０日（日）メイン会場が「中央卸売市場北部市場」、サブ会場が「市立宮前小学校」で参加機関は市民団体、民間企業、学校、指定公共機関、行政機関、医療福祉関係機関等、約５０機関、約1,３００人が参加しました。

川崎支部連合会からは、鈴木宏会長、原壯嘉支部長、清水泰平会員、大貫智之会員、吉澤幸雄会員、山岸耕二会員、八廣学会員、宍戸の計８名が参加しました。柔道整復師会は、応急医療活動訓練に参加し、聖マリアンナ大学、日本医科大学小杉病院、川崎市立病院、医師会、看護協会、薬剤師会、日本赤十字社等のメンバーで構成されていて、指揮を執るのは川崎市医師会副会長岡野先生で、運ばれて来たけが人を医師と看護師がトリアージを行い、柔整師会はけが人を色別テントに搬送し、又、応急処置をするという役割でした。毎年、残暑厳しく、溢れる汗を拭いながらの訓練になるのが恒例ですが、今年に限って、肌寒い雨という異例の環境で、けが人役の人（聖マリアンナ大学の看護学生さん達）はＴシャツにパンツという軽装で、冷たい雨にうたれて、本当に寒さに震えていました。筋肉自慢！力自慢！の日体大出身の多い我が柔整師会諸氏達は３０～４０分間休む暇無く次々運ばれてトリアージの終わったけが人を担架も不足して無い中、サクサクと迅速にテントに運び込みました。何故、そんなにキビキビ頑張ったかというと、けが人役の看護学生の若い女子達が皆とても可愛かったからだと思われます（笑）その後、応急医療活動訓練参加メンバーの反省会が開催され、意見交換が行なわれ終了となりました。

宍戸としては、悪天候より更に残念だったのは、毎年楽しみにしていた超美味しい♪自衛隊カレーが、配られる時間と訓練の時間が被ってしまい(^_^;) 食べられなかった事です(T_T) 来年はカレー食べたいなー！！

地震体験
KAWASAKI CITY
ISUZU

救護所

横浜南支部夏季学術講習会

横浜南支部　樋　口　卓　哉

平成２７年９月１９日（土)、新横浜グレイスホテルにて横浜南支部夏季学術講習会を開催しました。小林哲也支部長の日頃の皆様方へのご協力と、感謝のあいさつに続き、支部顧問医である浜田洋志先生、支部会員である高橋正重先生にご講演いただきました。

浜田先生の演題は「交通事故の治療について」です。先生は、外傷の程度が大きいものでも小さなものでも、患者さんの訴えている症状、部位への合理的な施療を行い、治療を続けていくなかで、回復の進み具合によってはそれに応じた定期的な医師への治療方針を伺うこと。それにより、ゴールまでの有効的な治療と期間を計画でき、治癒に繋がっていく。患者さんのことを第一に考えることで、身体的にも精神的にも負担がかからず、徐々に良くなっていくことが実感できる。と仰ってました。

私は患者さんの今の日常生活に一日でも早く、戻れるように最善を尽くしたいと改めて思いました。

次に高橋先生が講演しました。演題は「鎖骨骨折　固定保持困難の考察（失敗症例と反省)」です。先生は、鎖骨骨折３症例を発表されました。そして、今回はあえて若い先生方の治療に役立ててほしいということで、失敗例の発表をされました。

・患者さんはＱＯＬに支障なく、外観的にも良く、ＲＯＭが正常範囲内で受傷前と同じであれば治癒をしていると思うが、施術者から見れば受傷前と完全に同じでなければ、それは、失敗になる。

・鎖骨骨折は年齢、体型、男女比などによりさまざまですが、鎖骨外端部３分の１の部位が直達的、介達的にも外力受けやすく、受傷しやすい部位であります。無血療法の範囲内であっても烏口鎖骨靭帯、肩鎖関節等の軟部組織の程度や転移が数回あるなど、癒合が遷延性に長引いた場合、偽関節等を併発しやすいことを考えると外科的措置なども選択しなければならない。ただ、それでも患者さんによっては御自身が外科的措置を拒否された場合の治療方針と予後、リスクを患者さんにしっかり説明しなければとも述べられていました。

私は医療者として患者さんの為、慢心することなく頑張らなければと思いました。

最後に浜田洋志先生、高橋正重先生、お忙しい中、ご講演下さり、ありがとうございました。また高橋先生の御子息、高橋亨尚先生もありがとうございました。

夏期納涼会

横須賀支部　上　田　泰　洋

７月２５日にセントラルホテル横須賀に於いて、支部学術研修会ならびに納涼会が開催されました。根岸新支部長、また新役員体制のもと多くの先生方にお集まりいただいての盛況な会合でした。

研修会の講師は、前神奈川県社会保険柔道整復療養費審査委員を務めていました石渡吉治会員。演題が「健保の審査について」との内容で講演をして頂きました。

支部の会員からの実際にあった話をテーマに講演を進めていただきましたが、国保の患者調査（アンケート）や、広告の話がでたりと話が多岐にわたり、講演というよりディスカッション？っと思うほど他の会員の先生方も多数発言がある活発な議論でした（笑）

柔整業務を守っていくのは他の誰でもなく、支部員一人ひとりであるとの大変胸が熱くなる意見が出るなどあっという間の一時間の研修会でした。

その後、会場設営が終わったのちに納涼会に移りました。西村清会員の乾杯の音頭を皮切りに宴会がスタート！先程とはまったく雰囲気が変わって終始笑顔が絶えないとても楽しい納涼会となりました。こういう場で日々の施術で抱えた悩みや、不明な点を偉大な先生方に聞けることに本当にありがたいなと感じます。

平塚支部だより

平塚支部　山　内　栄　蔵

●東名会開催

去る平成２７年６月２５日（木）午後７時３０分より小田急線本厚木駅北口料亭『やまと本厚木店』に於いて、支部より宮本嘉保平塚支部長、厚木伊勢原地区支部員１４名参加、東名厚木病院より日野浩司副院長他外科医１名、整形外科医４名、地域連携室１名の参加をいただきまして、第３３回東名会が開催されました。

石川照夫会長の開会の辞に始まり、宮本平塚支部長の挨拶、厚木伊勢原地区支部員１４名の自己紹介と東名厚木病院に対する謝意が述べられました。

続いて東名厚木病院より副院長他諸先生のご挨拶を頂き辻村支部員の乾杯の音頭で懇親会へと移りました。

普段着での懇親を深め意見交換が行われ、私たち柔整師からの要望を真剣に受け止めて頂き、和気藹々のうちに相互理解を深めました。

医師の諸先生方とのこの様な取り組みの継続は、柔整師の資質の向上及び医接連携の点からも今後益々大切になって来ると感じ懇親会も盛会のうちに終了致しました。

第１回トレーナー講習会

相模支部　橋　本　誠　一

平成２７年７月８日（火）相模原市民会館にて、当支部会員、久保田先生による第１回トレーナー講習が行われました。（１０回予定） この講習会は来る２０２０年に開催予定の東京オリンピック、パラリンピックを見すえて我々柔整師が少なからず貢献できる様、研鑽を目的として組まれたプログラムです。

久保田先生はこの講習会の講師としては打ってつけの存在で、プロサッカーＪリーグで

１９９７年～２００３年　ガンバ大阪
２００３年～２００７年　東京ヴェルディ
２００８年～２０１３年　横浜マリノス

のトレーナーを歴任、まさにプロの現場を知るその人です。

すでに支部の先生方は北丹沢耐久レースや家庭婦人バレーボール大会，陣馬山レースなどの救護班でいわゆるトレーナーとして活動していますが、この講習会でいうところのトレーナーとはその定義として　アスレチックトレーナーとは、スポーツドクター及びコーチなどと緊密に協力のもと、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の救急処置、アスレチックリハビリテーション及びトレーニング、コンディションなどにあたる者をいう。とあり、この定義にのっとり、講義は進められました。

参考として日本体育協会の公認アスレチックトレーナー対応カリキュラムが紹介され、具体的にトレーナーの業務、必要とされる技術、必要とされる知識、必要とされるヒューマンスキルなどについて熱心に講義されました。印象に残ったのは定義にあるようにドクターやコーチなどと緊密な協力のもとで行うと言うことで、特にメディカル分野の統括役のドクターとの関係の大切さについて競技者の情報の共有と言う面で、トレーナーのみが秘密を握っていることの無い様、注意すべき等、その際にも対ドクター、コーチなどに伝える旨、競技者に対する説明と同意（インフォームドコンセント）の必要性やハラスメント（特にパワハラ）にもあわせて触れ、言葉には細心の注意をすることなど、ついつい我々開業柔整師が陥りがちなスタンドプレーを暗に戒めている事でした。そこにはチームスタッフしての役割が強調されているようです。その面でのスキルとして様々のバックボーンの先生方といかに協力してやっていけるかが問われています。

講義の合間には、サッカーチームのトレーナー時代のリハビリ現場などの貴重写真などを紹介していただいたり、遠征中に撮られたチーム、インテルや、あのＡＣミランの豪華なロッカールーム（各ロッカーに個人用のプレー確認用の液晶モニターつき）の写真を拝見するに当たっては思わずため息が出そうでした。

またスポーツフィールド業務として、用具の管理や各々の選手の飲料水の管理（水分補給用のボトルのセッティングなど）裏方として、一見地味だが重要な仕事も紹介されました。先生としては、まだまだ伝えきれないことも多い様に見受けられました

が、非常に熱のこもったそして次回が大いに楽しみな講義でした。

チョット　変わった！相模支部顧問医講演会

広　報　部

酷暑の残る８月末の土曜日は恒例となっております、「相模支部顧問医講演会」です。定刻の１８時に二十数年間の長きに亘り本支部の顧問医を引き受けてくれている黒河内地区病院協会長と同会副会長の中野重徳中央病院院長先生の超多忙コンビが揃っているではありませんか。両巨頭の本日のお目当ては、『ほぼ半世紀！行司人生と土俵の舞台裏・・・』と題した大相撲第３６代木村庄之助親方（角界・相撲界＝親方と呼ぶそうです）の講演会と歓談を楽しみに参加していただきました。中野重徳副会長はご自身が荒磯部屋（関脇二子岳が起こした部屋・・初代貴乃花が付け人で有名）の後援会長を務めたことが有るほどの相撲通であり黒河内顧問医とは御２人揃って和服姿で東京場所の観戦に行くほどの大相撲ファンであり、この企画を楽しみに参加、庄之助親方との歓談を堪能していただくことが出来ました。

講演会の終了後には非常に中野先生と木村庄之助親方の打ち解けた歓談の様子を見ていた発案者の桜美林大学の阿久根英昭教授も温かい笑顔でこの企画の成功と相模支部の団結を見守ってくださいました。歓談の挨拶の最後に“結びの触れ”『・・・千秋楽にござります』では、一瞬室内が固まってしまったかのような緊張感につつまれました。本物を見せていただきました。二十数年間で初めての企画、生涯教育の一環としても非常に有意義な時間となりました。なお、ご自身の講演時間を短縮してまでこの企画に賛同協力いただいた黒河内顧問医の度量の大きさに感謝申し上げます。

救
護
所

編　集　後　記

広報部長　白　鳥　輝　夫

今期で３期目の広報部の職務を務めることになりました。早くも半期を過ぎようとしているこの号が広報誌で皆様に今年度の柔道大会・学術大会と大きなイベントの報告を行なう時期です。今期は相模支部森務部員４期目と横浜南支部の近藤央会員に部員を務めていただくことになりました。また、各支部からも広報担当者１２名を推薦いただき、ご協力を賜っております。

各地から紅葉の便りと北海道から初冠雪などのニュースを聞いていると『７６号の表紙は何が良いのか、どうしようと』いろいろと悩んだ結果皆様方が大好きなビールの基ホップの花が野生で群生していたことに感激したことを思い出し、１０数年前に山梨県増冨温泉から長野県南佐久郡に抜ける信州峠の山中の感動を思い出し、撮影に行って参りました。昔の林一面を覆い尽くすほどの迫力は無かったもののビールの泡を思わせるような柔らかな丸みの花が可憐なすがたを写真にしてみました。

今号、連載企画の長内顧問公認会計士におかれましては、業務繁忙のため７６号へのご投稿が戴けませんでした。次回をお楽しみにしてください。

次号は３月の春の足音の時期になります。写真だけの投稿もお待ちしております。

広報部員　近　藤　　央

今年度より広報部員を務めさせていただきます横浜南支部の近藤　央と申します。本来でしたら編集後記は本誌編集を通して感じたことを記載すべきではありますが、今回の編集後記は広報部員として私が作成した初めての「編集後記」ですので、この場を借りて広報部員としての抱負を少しだけ書かせていただきます。

私はこれまで総務部、経理部の中でも特に「法人運営及び管理に関する事業」に関わる業務を務めてきました。今年度より務めます広報部の業務は「社会活動に関する事業」「災害活動に関する事業」「広報活動に関する事業」など公益目的事業に直接関わる業務であり、これらの事業は会員以外の不特定の人々と多く関わり、外から見た本会のイメージを決定づける大切な業務であると考えております。そのような大切な事業に関わる以上、常にその自覚をもち、緊張感を絶やすことなく、任期を全うしたいと考えております。至らぬ事も多々あるとは思いますが、会員の皆様からたくさんの事を学び、精一杯務めさせて頂きますので、よろしくお願いいたします。

平成２７年１０月３１日

発行人　公益社団法人神奈川県柔道整復師会
会　長　和　田　秀　樹
〒222-0033　横浜市港北区新横浜3-23-11
ＴＥＬ　045-473-0735（代）
ＦＡＸ　045-474-0628（専）
http://www.sekkotu-kanagawa.com

編集人　広報部長　白　鳥　輝　夫

印刷所　有限会社吉岡印刷
〒232-0061　横浜市南区大岡3-4-8
ＴＥＬ　045-741-3452
ＦＡＸ　045-712-6823